

平成 25 年度 岡山市市民協働推進モデル事業
自立する子どもを育むための体験活動調査
報告書

特定非営利活動法人 岡山市子どもセンター

1. 事業概要	
1-1. 背景と目的	3
1-2. 事業内容	3
2. 調査1「自立する子どもを育むための体験活動調査（保護者）」	
2-1. 調査の目的	4
2-2. 調査方法	4
2-3. 調査結果及び考察	4
3. 調査2「自立する子どもを育むための体験活動調査（団体）」	
3-1. 調査のねらい	2
1	
3-2. 調査概要	2
1	
3-3. 調査結果及び考察	2
1	
4. まとめ	
4-1. 成果と課題	3
6	
4-2. 今後の展望	3
6	
資料	
3 7	

1. 事業概要

1-1. 本事業の背景と目的

かつての多くの子どもたちは、仲間とともに自然の中で遊びながら、あるいは、地域において生活、成長していく過程で、さまざまな自然体験・社会体験を日常的に積み重ねて成長する機会に恵まれていた。このような体験活動は、「社会を生き抜く力」の養成や、規範意識や道徳心の育成、学力への好影響といった意義が挙げられており⁽¹⁾、岡山っ子育成条例にも挙げられている「自立する子ども」を育むためにも、体験活動は必要不可欠だと考えられる。

体験活動が重要だと言われている一方で、近年は、都市化、少子化、電子メディアの普及、地域とのつながりの希薄化といった社会の変化などにより、これまで身近にあった遊びや体験の場や「本物」を見る機会が少なくなったこと、リスクを恐れるあまり周りの大人が子どもに対して過保護になってしまい、必要な体験活動の機会を奪っている面があることなどが指摘されている⁽¹⁾。また、親の経済格差が、子どもたちの体験格差にもつながっていると言われている⁽¹⁾。

このような子どもたちを取り巻く状況に対して、具体的な課題把握、課題解決を図り、子どもたちに豊かな体験活動を提供していく必要がある。このため、岡山市在住の小学校一年生から三年生の子を持つ保護者と、岡山市内で体験活動を提供する団体を対象にアンケート調査を実施し、体験活動に対する親の意識と、団体が体験活動を提供する上での課題を明らかにすることとした。また、このアンケート結果をもとに、子ども会などの地域団体や、公民館などの公共施設、子どもへの体験活動を提供する NPO 等との協働により、より子どもたちが参加し、充実した体験活動となるために必要なことを見いだしていく。

引用・参考文献

(1) 中央教育審議会(2013)：今後の青少年の体験活動の推進について(答申)

1-2. 事業実施体制

本事業は、子どもに体験活動を提供している NPO 法人岡山市子どもセンターと岡山市子ども企画総務課及び中央公民館との平成 25 年度の岡山市協働推進モデル事業として実施した。

平成 25 年秋より、調査項目の検討を重ね、調査対象を小学校 1 年から 3 年までの子どもを持つ保護者、および、岡山市で子どもに体験活動を提供している団体・施設とし、調査用紙を作成した。

保護者は岡山市の住民基本台帳にもとづき、小学校 1 年生～小学校 3 年生の児童のいる世帯を岡山市においてシステム処理をし、無作為抽出した 1,000 世帯。

団体・施設は岡山市内で体験活動を提供している、民間非営利団体、公共施設等を各種データベースから抽出した、岡山市内の団体 752 団体。

それぞれに、平成 26 年 2 月上旬に調査用紙を郵送し、2 月 28 日を締切として回収したものをもとにしている。

2. 調査1「自立する子どもを育むための体験活動調査(保護者)」

2-1. 調査の目的

岡山市における子どもたちの体験活動への参加実態と、体験活動への参加に対する保護者の意識を明らかにする。それらの実態から課題を明確化させ、官民が体験活動促進のための方策を立案する。

調査対象を低学年の児童の保護者に限定したのは、①低学年は習い事なども少なく比較的体験活動をする時間が確保しやすいだろうと考えられたこと、比較的保護者が子どもの生活時間をコントロールしやすいだろうと考えられること。②また高学年に比べるとより低学年の体験活動を保証することが、子どもにとっても保護者にとっても、その後の体験活動に結び付き、引いては子ども時代全体の体験活動を充実させることなどが理由である。

なお、今回の調査における「体験活動」は、「親が参加させた自宅以外で提供されている活動」としている。

2-2. 調査方法

(1) 対象

岡山市に在住の小学校1年生～3年生の児童の保護者

(2) 手法

アンケート調査(調査用紙は巻末付録 P37 を参照)

岡山市の住民基本台帳にもとづき、小学校1年生～小学校3年生の児童のいる世帯1,000世帯を、岡山市においてシステム処理をし、無作為抽出した。

調査票は1,000通郵送し、260通返信があった(回収率26.0%)。

2-3. 調査結果及び考察

【保護者の実態】

●「あなたの年齢についてお尋ねします。該当する番号をひとつだけ選び○で囲んでください。」

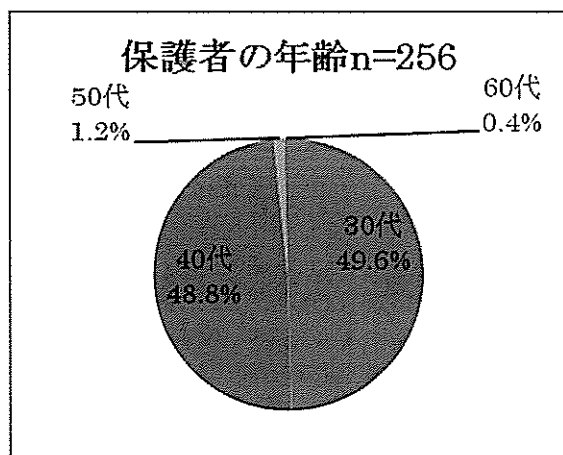


図1 アンケートに回答した保護者の年齢

30代 40代がほぼ半数ずつ。50代、60代もいた。20代はいなかった。

●「世帯年収についてお尋ねします。該当する番号を一つだけ選び○で囲んでください。」

※ここでの世帯とは同居している家族全員を指します。

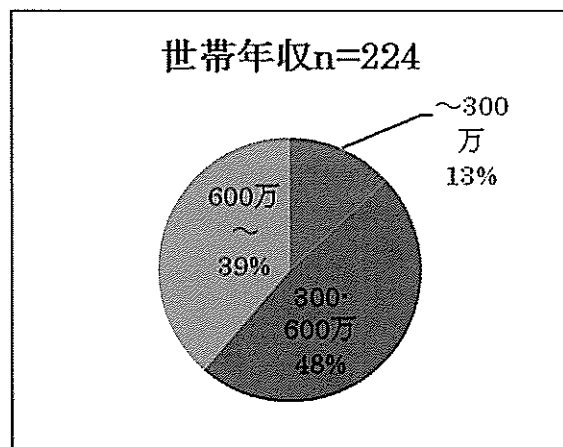


図2 保護者の世帯年収

【子どもの実態】

●「お子様が所属している青少年団体すべてに○をつけて下さい。」

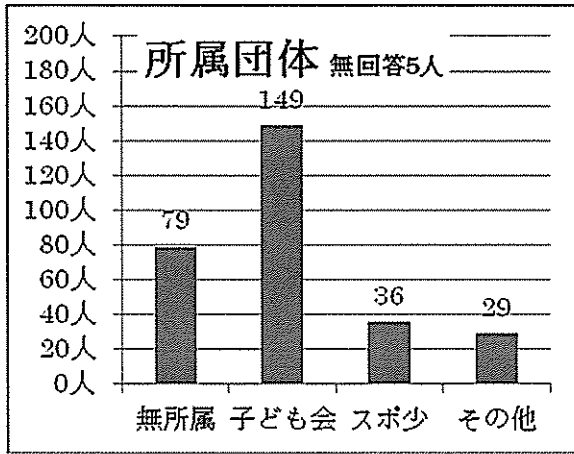


図3 子どもの所属団体

回答者 260 人のうち半数以上の 149 人が子ども会に所属していた。

子ども会への所属がこれだけあるということは、その活動を充実させることが、子どもの体験活動を保証する近道ともいえる。

一方どの組織にも参加していない児童は 79 名であり、これは全体の 30%にあたる。

●「お子様の学習塾への通塾状況についてお尋ねします。該当する番号にひとつだけ選び○で囲んでください。」

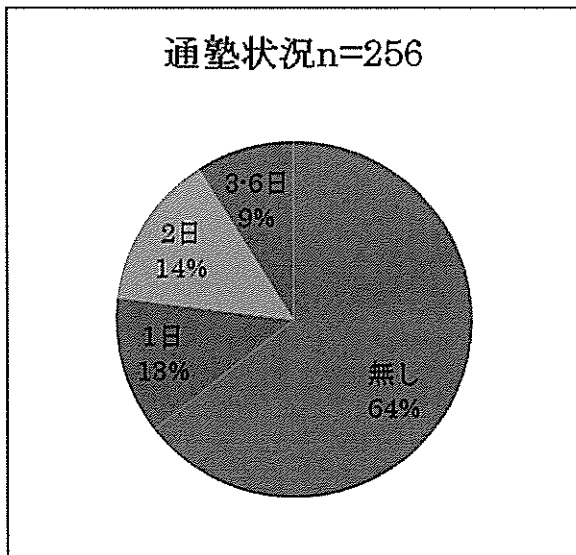


図4 子どもの通塾状況

3 分の 1 は何らかの習い事に毎週通っているが、低学年のためか、まったく通っていない児童も 3 分の 2 いる。

●「お子様の休日のTV、ゲーム、インターネットの一日あたりのおよその合計視聴時間についてお尋ねします。該当する番号をひとつだけ選び○で囲んでください。」

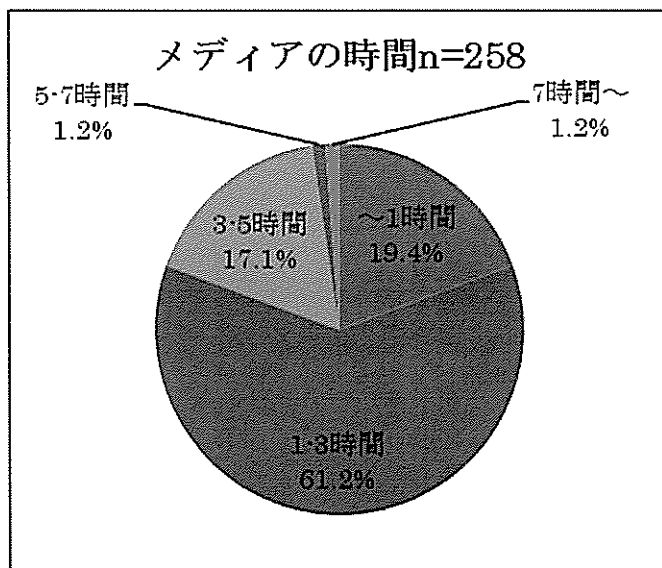


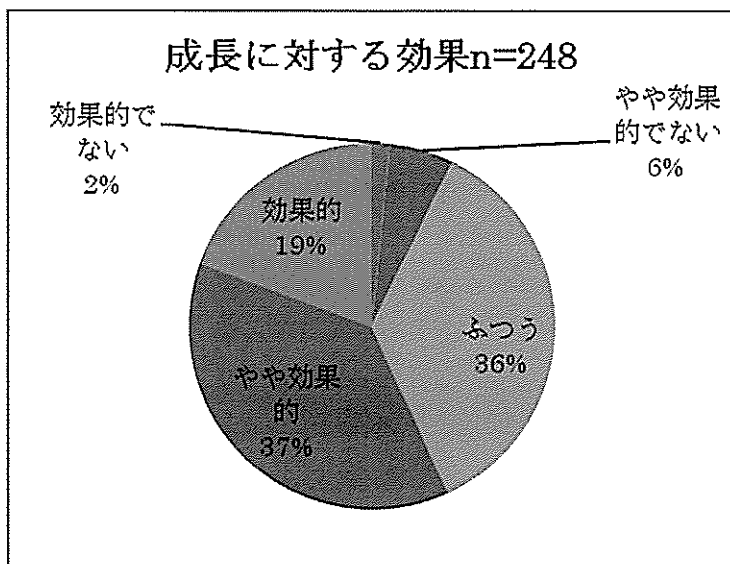
図5 子どものメディア接触

家庭での時間の過ごし方の中で、今やどの家庭でもあたりまえとなっているのが、TV やゲームやインターネットなど、画面を見ながら遊んだり情報収集したり他人とコミュニケーションしたりする時間だろう。これらの時間が長くなればなるほど、直接体験の時間は相対的に短くなる。

アンケート結果を見ると 8 割の児童が休日の過ごし方として 1 日に 1 時間以上画面を見て生活していることがわかる。

また、2 割の児童は 3 時間以上画面に向き合って休日を過ごしている。

●「この年度内に参加された体験活動の、お子様の成長に対する効果についてお尋ねします。該当する番号をひとつだけ選び○で囲んでください。」



体験活動が子どもの成長に効果的であったかを尋ねたところ、「効果的」「やや効果的」を合わせると56%が効果的と答えている。一方「効果的でない」「やや効果的でない」の合計は8%であり、ほとんどの保護者にとって子どもの体験活動が、子どもの成長にとって効果的だと考えている。とはいえ、「ふつう」と回答した人も三分の一にあたる36%いることから、活動の中身をより効果的なものにしていき、効果的だと思ってもらえるような活動にしていける必要がある。

図6 体験活動の成長に対する効果の実感

ここまで見てきたように、所属団体、通塾状況、メディア接触状況などから、間接的に子どもの体験活動の機会が必要なことがうかがえるが、次からは、具体的に活動の中身を見て、さらに詳しく様子を分析していく。

今回の調査では、体験活動を「自然体験活動」「生活体験活動」「文化体験活動」の3つに大別した。それぞれの分野において、小学生の参加が予想される活動内容を挙げ、それに対して過去1年間で参加したことのあるものについて尋ねた。

加えて、それらの体験活動量の充足度合を、「不十分」「やや不十分」「ふつう」「やや十分」「十分」の五段階で評価してもらった。

このうち「自然体験」の状況から見ていく。

【自然体験について】

●「平成 25(2013)年度に、学校以外で、小学校 1 年生～3 年生のお子様を参加させた自然体験・スポーツ活動などについて、教えてください(親子での参加を含む)

- (1) 該当するものすべてに○をつけてください。その他は空欄に内容をご記入下さい。(複数回答可)
- (2) 今年度、お子さんを十分に自然体験・スポーツ活動などに参加させられたと感じていますか。」

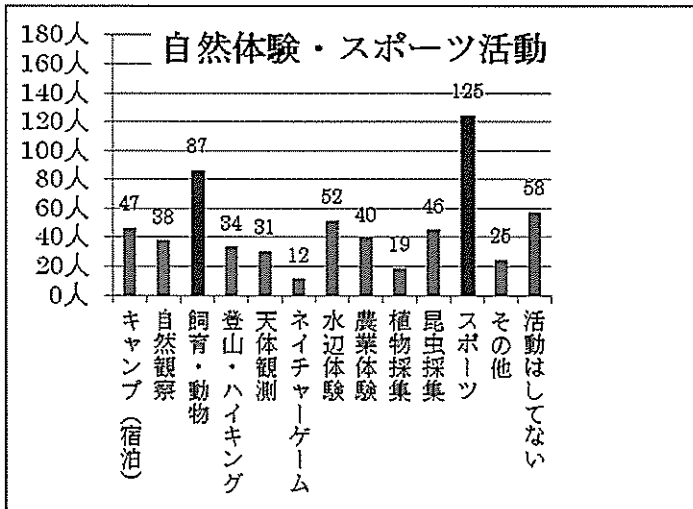


図 7. 自然体験・スポーツ活動の参加種別と人数

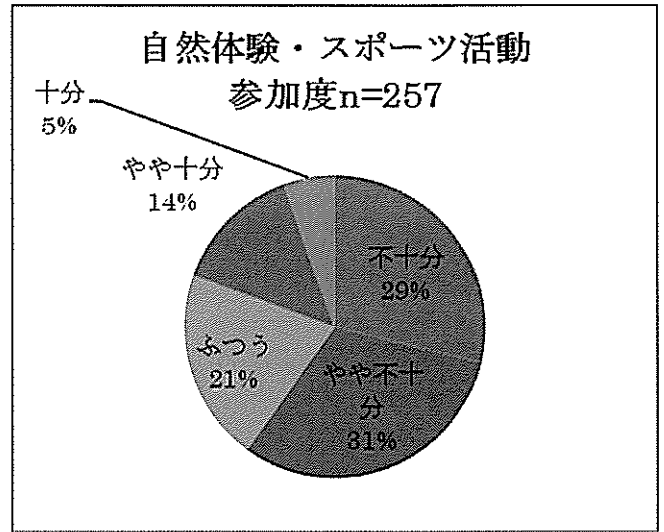


図 8. 自然体験・スポーツ活動への参加充足感

体験活動への参加実態と、参加充足感

もっとも多く体験されているのは「スポーツ」続いて「飼育・動物」と続く。年間を通じて「自然体験・スポーツ活動」にまったく参加していない児童は 58 名と、全体の 22%であった。

一方、これらの体験活動について参加が十分だと感じているかどうかを尋ねたところ、「不十分」「やや不十分」とを合わせると 60%であるのに対して、「十分」「やや十分」を合わせると 19%である。この 19%という数字は、この結果だけを見ると体験活動が十分に行われていないと考えていることがわかる数字だが、実は、後に出てくる「生活体験活動」や「文化体験活動」に比べると、最も大きい数字である。

以下に、体験に参加させる理由と参加を迷う理由を見ていく。

●「体験活動へ参加させる理由または参加を迷う理由で、該当するものすべてに○を付けてください。」

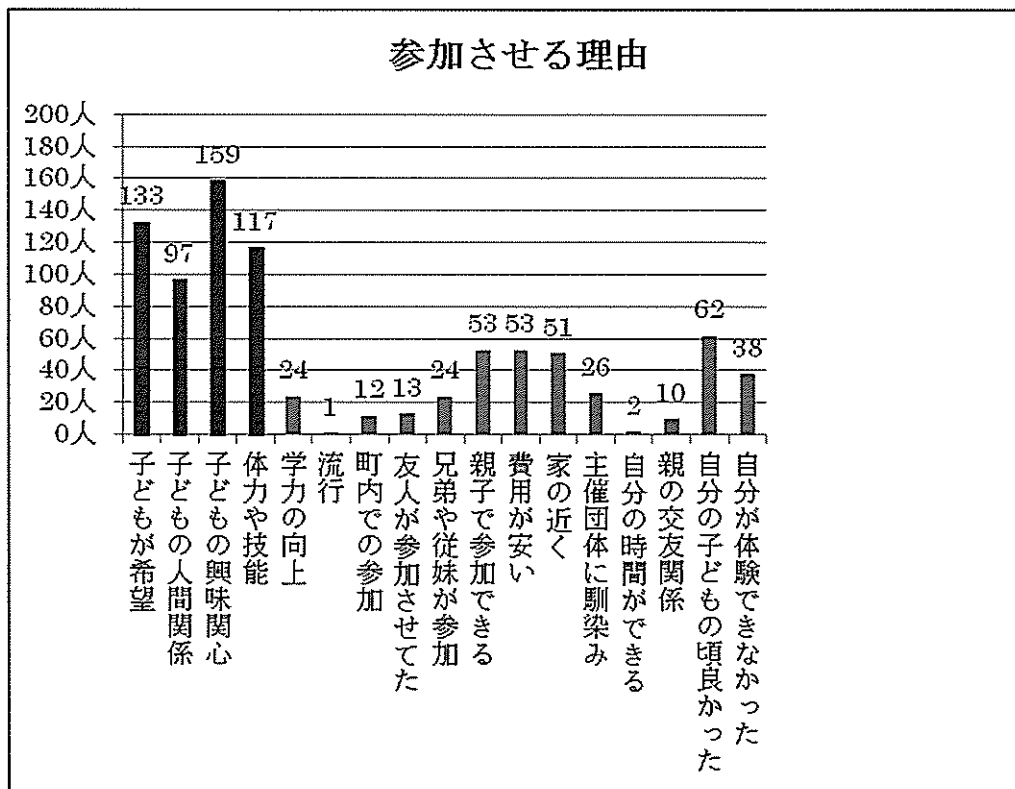
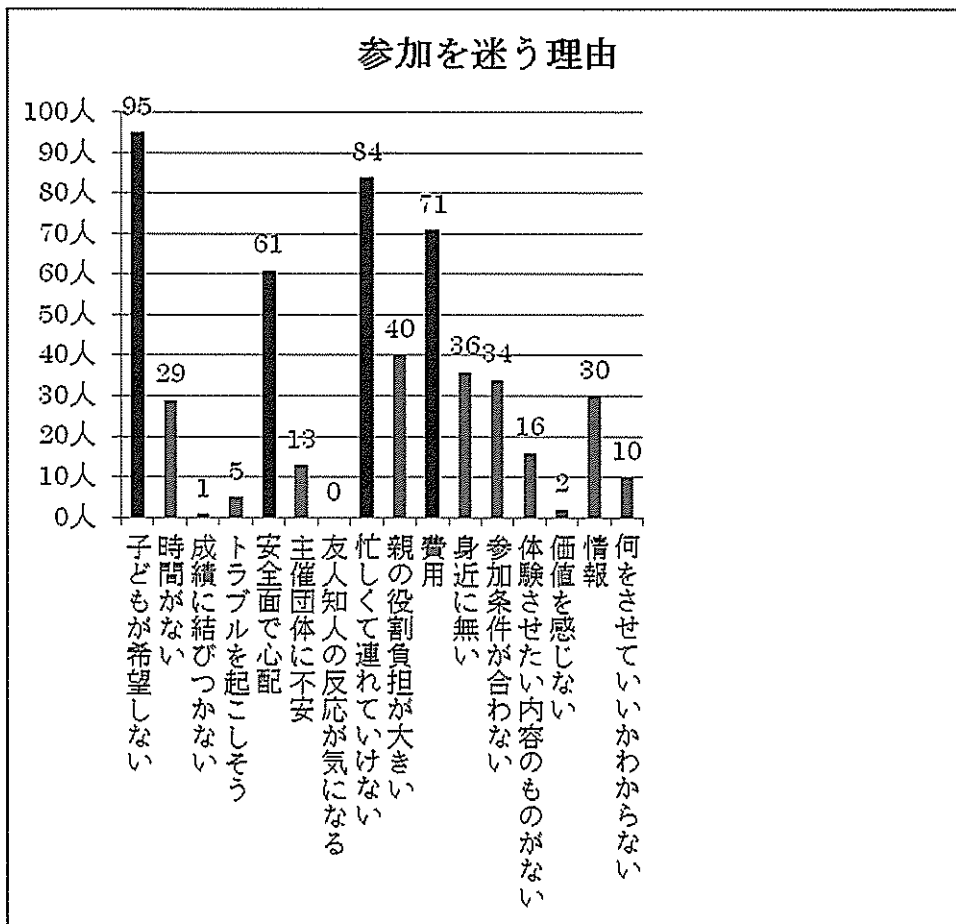


図 9 自然体験・スポーツ活動に参加させる理由

「参加をさせる理由」で多いのは、「子どもの興味関心」「子どもが希望」「子どもの人間関係」「体力や技能が身に付く」の四つの理由が顕著であり、子どもの意思を尊重したり、子どもにとってプラスになると思って参加させている保護者が多いことが分かる。

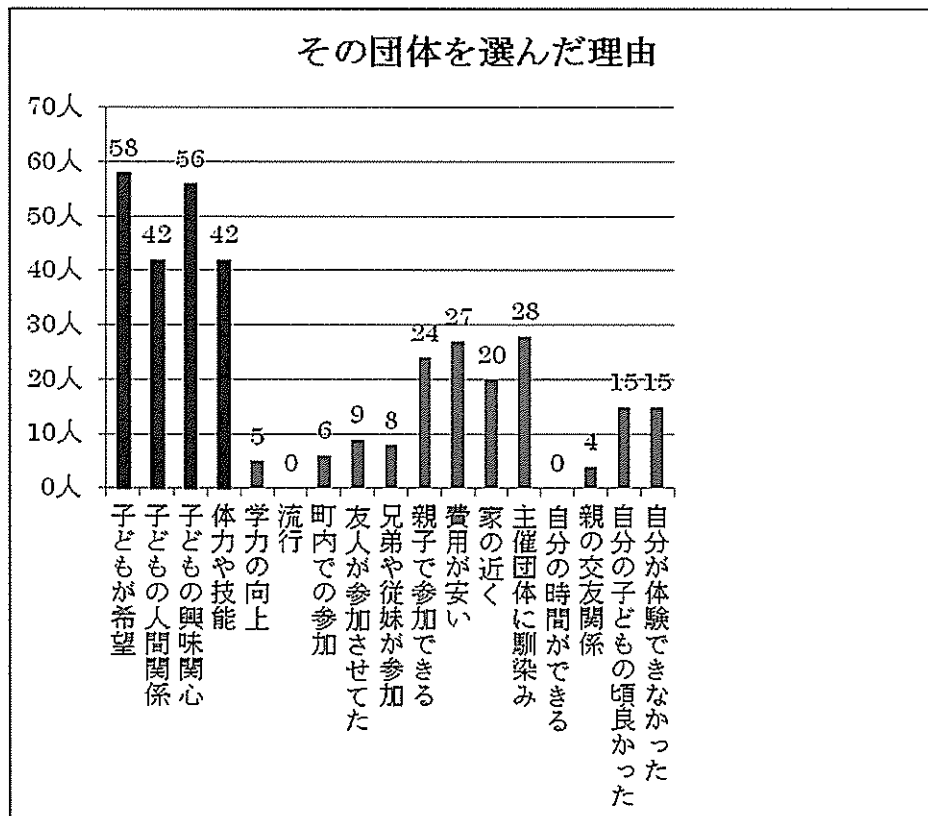


「一方参加を迷う理由」で多いのは、「子どもが希望しない」という理由が最も多く、参加させる場合と同様に、子どもの意思を重視していることがわかる。続く理由の「忙しくて…」 「費用」は、親の事情である。逆に言えば、連れていきやすい身近な場所で、安い企画ならば参加しやすいともいえるが、しかし、自然体験などは特別な環境に赴いて体験するものが多いため、交通費も含めて、どうしても費用が高つてしまうのだろう。

一方「安全面で心配」は、自然体験にしてもスポーツにしても、怪我や事故にあう危険性を伴う。このため、保護者がより安心して参加させられるような、「安全面への対策とアピール」が必要と考えられる。

図 10 自然体験・スポーツ活動への参加を迷う理由

●「その団体(参加させて特に良かった活動を主催した団体)を選ばれた理由を教えてください(複数回答)。」



この結果は、参加させる理由とほぼ同様の内容となっている。

図 11 自然体験・スポーツ活動の良かった団体を選んだ理由

【生活体験について】

●「平成25(2013)年度に、学校以外で、小学校1年生～3年生のお子様を参加させた生活体験活動について、教えてください(親子での参加を含む)

- (1) 該当するものすべてに○をつけてください。その他は空欄に内容をご記入下さい。(複数回答可)
- (2) 今年度、お子さんを十分に生活体験活動などに参加させられたと感じていますか。」

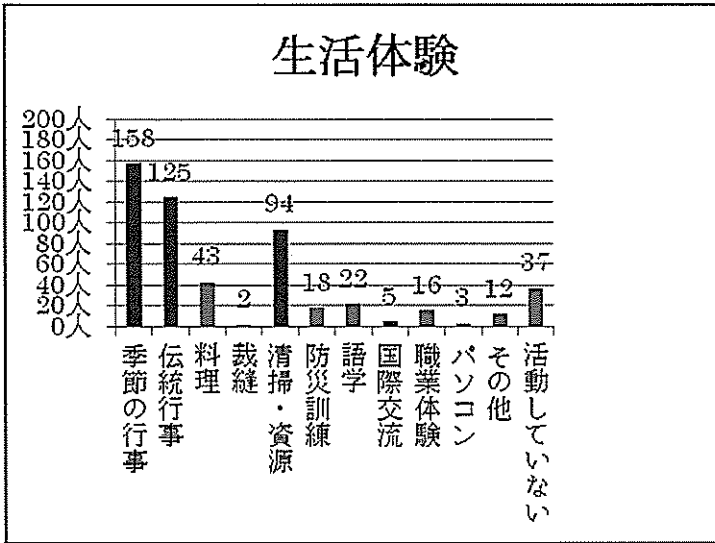


図 12.生活体験活動の参加種別と人数

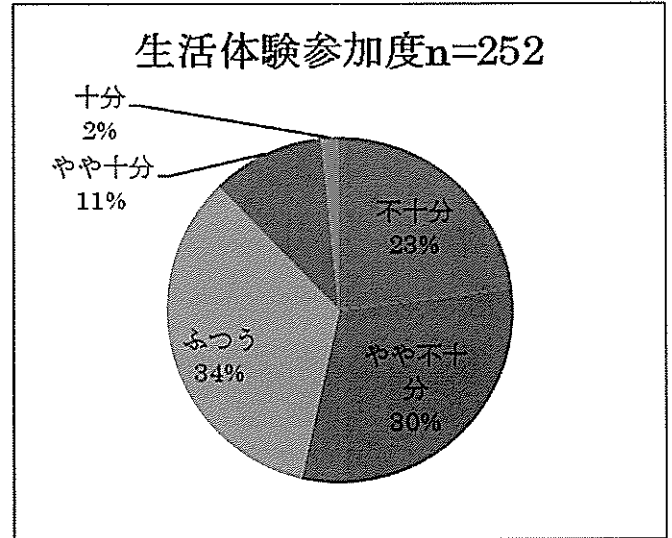


図 13.生活体験活動への参加充足感

もっとも多く体験されているのは「季節の行事」続いて「伝統行事」「清掃・資源」と続く。年間を通じて「生活体験活動」にまったく参加していない児童は37名と、全体の14%と、「自然体験・スポーツ活動」よりは少ない。

一方、生活体験活動についての参加度は、「不十分」「やや不十分」とを合わせると53%で、「十分」「やや十分」を合わせると13%である。こちらも「自然体験・スポーツ活動」に比べると比較的参加度合いが高いことがうかがえる。

●「体験活動へ参加させる理由または参加を迷う理由で、該当するものすべてに○を付けてください。」

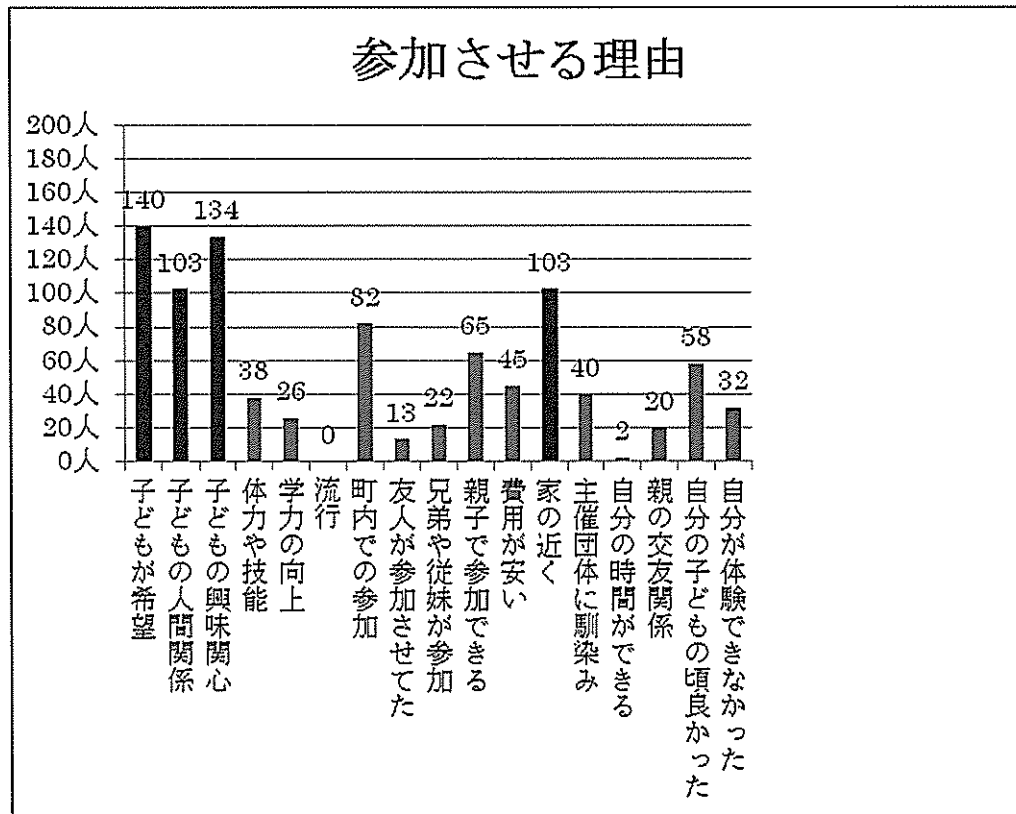
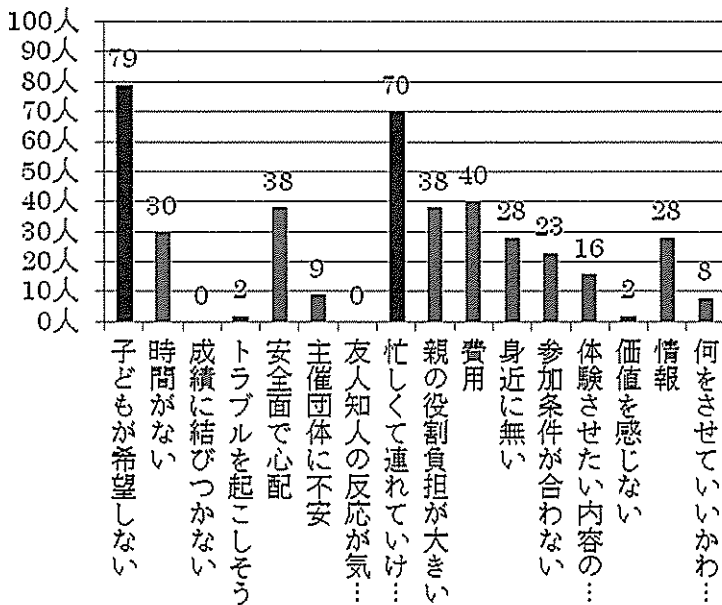


図 14 生活体験活動に参加させる理由

「自然体験」と「文化体験」と比較した時に、「家の近く」が理由というのは、「生活体験」に特徴的な理由といえよう。

参加を迷う理由

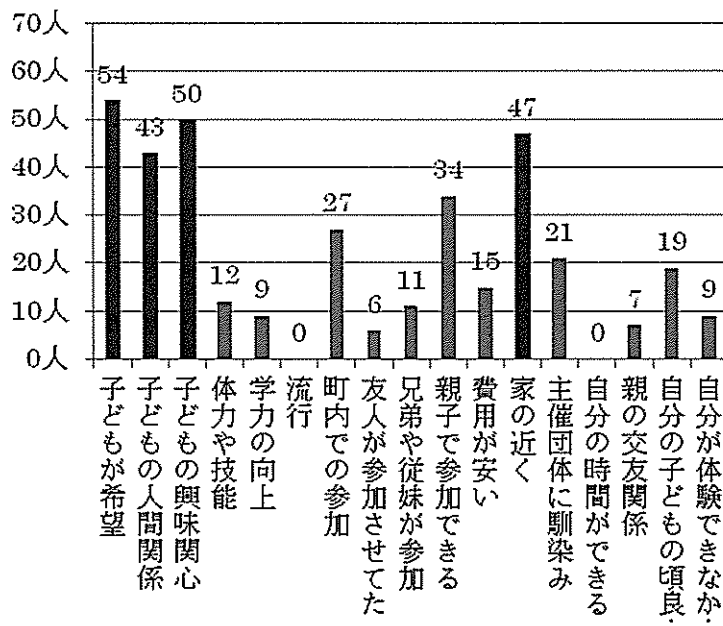


一方、「参加を迷う理由」としては、「子どもが希望しない」に続くのは「忙しくて連れていけない」であった。「自然体験・スポーツ活動」と比べると「安全面」や「費用」は大きな理由とはなっていない。

図 15 生活体験活動への参加を迷う理由

●「その団体(参加させて特に良かった活動を主催した団体)を選ばれた理由を教えてください(複数回答)。」

団体を選んだ理由



この項目は参加させる理由と同様の傾向である。

図 16 生活体験活動の良かった団体を選んだ理由

最後に文化体験についてみてみよう。

【文化体験について】

●「平成25(2013)年度に、学校以外で、小学校1年生～3年生のお子様を参加させた文化体験活動について、教えてください(親子での参加を含む)

- (1) 該当するものすべてに○をつけてください。その他は空欄に内容をご記入下さい。(複数回答可)
- (2) 今年度、お子さんを十分に文化体験活動などに参加させられたと感じていますか。」

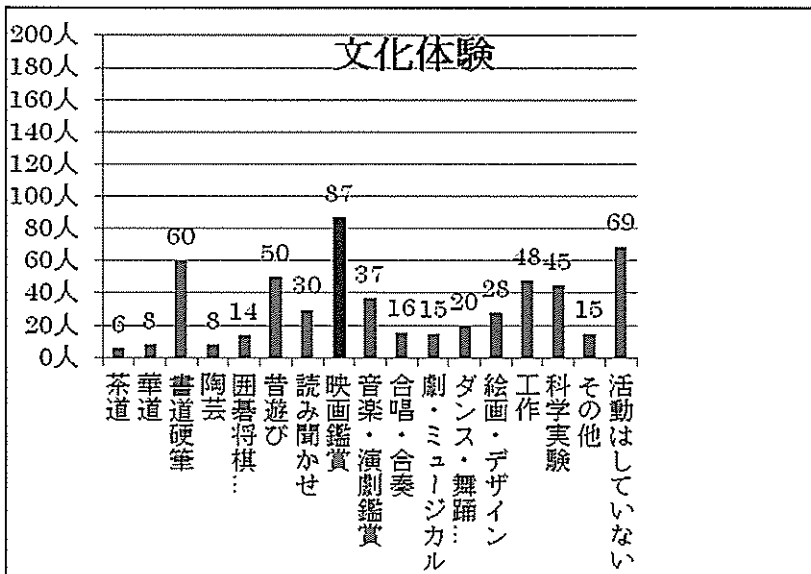


図 17.文化体験活動の参加種別と人数

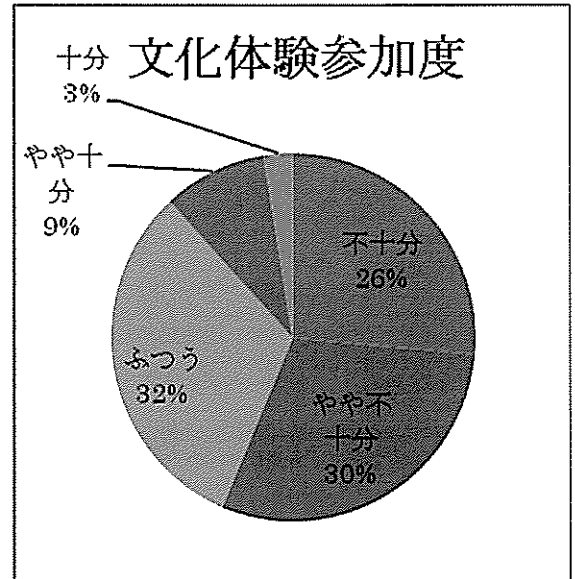


図 18.文化体験活動への参加充足感

もっとも多く体験されているのは「映画鑑賞」続いて「書道・硬筆」と続く。年間を通じて「文化体験活動」にまったく参加していない児童は 69 名と、全体の 26%(4 人に 1 人)であった。これは、3 種類の体験活動の中でも最も多い。

一方、これらの体験活動について参加が十分だと感じているかどうかを尋ねたところ、「不十分」「やや不十分」とを合わせると 56%であるのに対して、「十分」「やや十分」を合わせると 12%である。この傾向は「生活体験活動」とほぼ同じである。

●「文化体験活動へ参加させる理由または参加を迷う理由で、該当するものすべてに○を付けてください。」

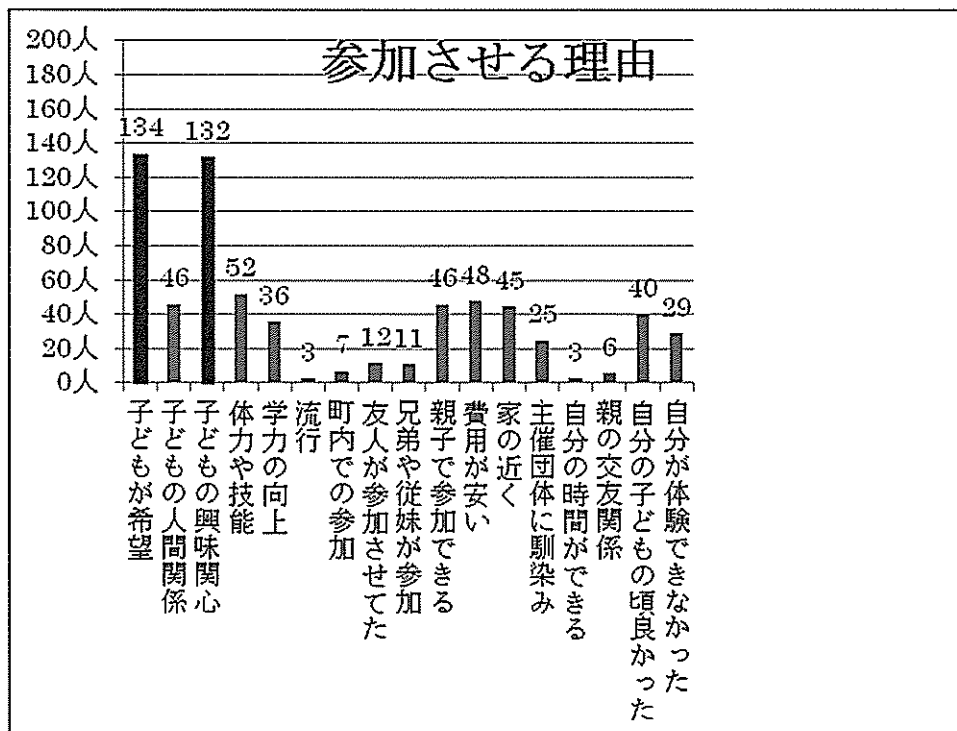
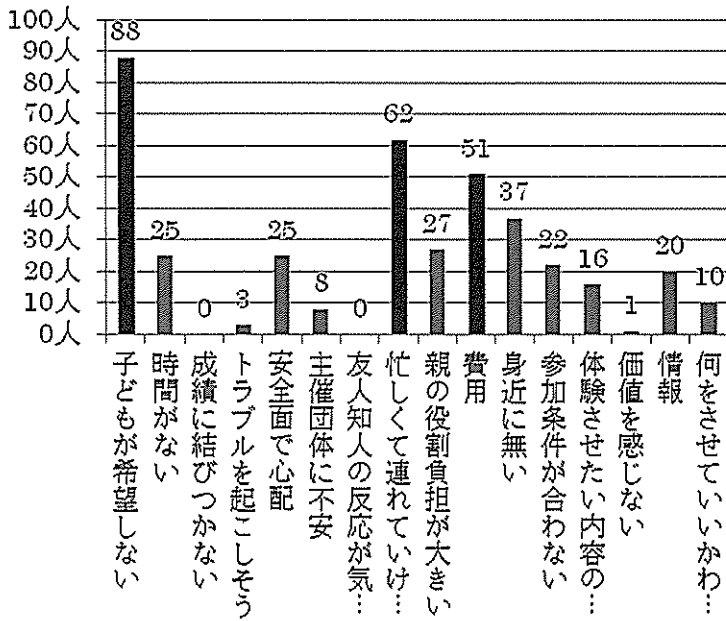


図 19 文化体験活動に参加させる理由

「子どもが希望」「子どもの興味関心」が大きい、「自然体験」「生活体験」と異なり「人間関係」は大きな理由にはなっていない。個人的に参加する企画が多いからだと考えられる。

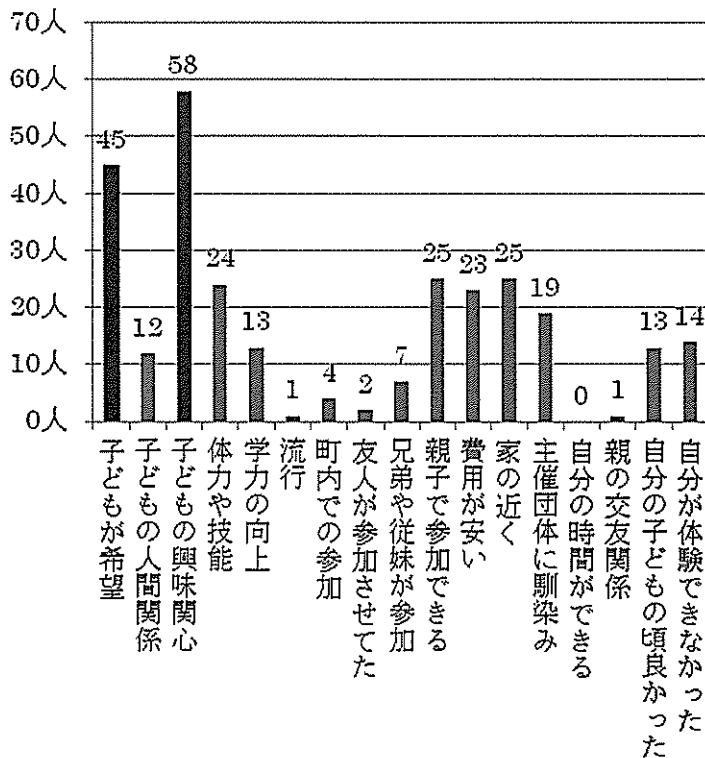
迷う理由



迷う理由は「生活体験活動」同様の「子どもが希望しない」「忙しくて連れていけない」に続いて、「費用」が挙げられている。これは、「文化体験」はそれなりの出費がかかると推測できる。

図 20 文化体験活動への参加を迷う理由

選んだ理由



こちらは、「参加させる理由」と同様の傾向である。

図 21 文化体験活動の良かった団体を選んだ理由

(3) 体験活動に対する保護者の肯定的意識

いずれの分野の体験活動についても、子ども自身が希望したことや、子どもの興味・関心が広がるといった点が、体験活動への参加決定に繋がっていることがわかる。加えて、親子で参加できることや、費用が安いこと、家の近くであることも、参加決定を決める要因のひとつになっているようである。さらには、保護者自身が子どもの頃に体験し良かったと感じたことが、参加を後押ししている傾向もみられる。

これらの結果から、親は、子どもの意思を尊重し、また子どもの可能性を育もうとする視点を第一に考えていることがわかる。また、子ども時代に出会う体験は一過性のものではなく、成長し親になった時の行動に影響する。つまり、体験活動への参加を持続的に促進するためには、体験活動に参加しやすい物理的な環境整備(場所までの距離、費用、親子での参加可など)をすると同時に、子ども自身が「良かった」と感じられる質の高い体験活動を提供することが重要と言える。

また分野別にみると、自然体験活動については、体力や技能の獲得を期待して参加させていることが分かる。生活体験活動では、町内で多くの人に参加していたことが参加に繋がった様子もうかがわれ、地域団体の活動が、生活体験を提供する場として一定機能していると考えられる。体験活動を提供する側は、こうした分野ごとの特徴を意識して内容を作り込むことで、対象のニーズに応じたプログラム構築が可能となるのではないだろうか。

以上見てきたように、体験の種類によってそれぞれに特徴があることがわかる。「自然体験・スポーツ活動」は非日常的な体験ができたりスポーツで人間関係の形成が可能であるが、安全面や費用の面が課題。

「生活体験活動」は生活圏で行われるため参加しやすく、また友達関係などの理由で参加することがあるものの、その分日常的であるから参加度が「十分」というよりは「ふつう」となる。

また、「文化体験活動」は「自然体験・スポーツ活動」のような安全面への不安はないものの、費用が掛かったり近所で体験できるわけではないので、忙しくて参加が難しい。

(2) 体験活動別の参加充足感

1) 自然体験活動分野における各活動の参加充足感

一般的に、「4.どちらかといえば十分」「5.十分」が三割弱、「1.不十分」「2.どちらかといえば不十分」が四割前後を占める傾向。「飼育・動物との触れ合い」「植物採集」などと比較し、「登山・ハイキング」「天体観測」「ネイチャーゲーム」は、十分と感じる割合が高い。

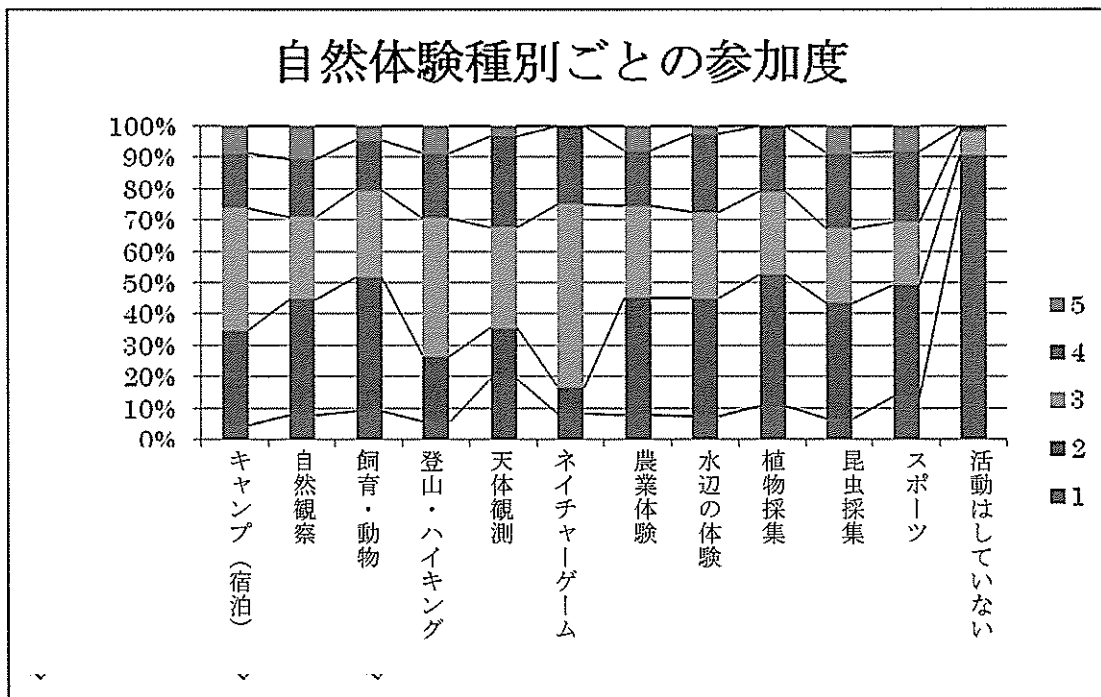
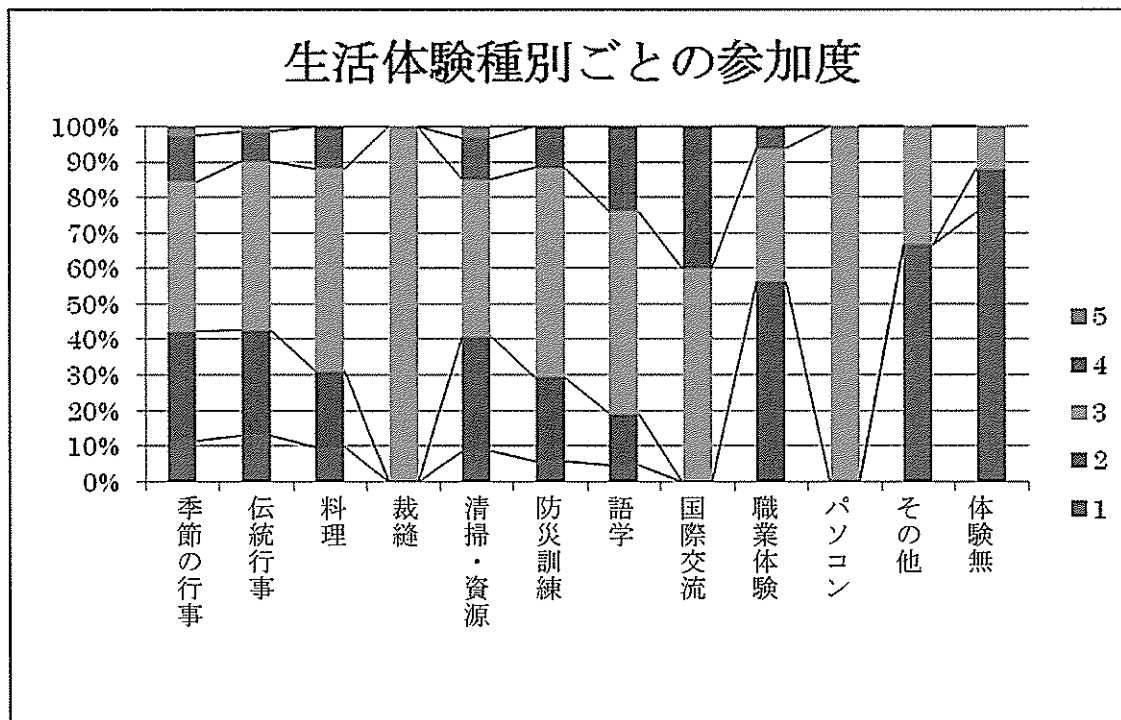


図 22. 自然体験活動分野における各活動の参加充足感

図の指標は、「1.不十分」「2.どちらかといえば不十分」「3.ふつう」「4.どちらかといえば十分」「5.十分」を示す。

2) 生活体験分野における各活動の参加充足感



一般的に、不十分と感じている体験が多いが、語学や国際交流といった異文化交流の要素をもつ体験は、他の体験活動と比較すると、「十分」と感じられていることがわかる。

図 23. 生活体験活動分野における各活動の参加充足感

図の指標は、「1.不十分」「2.どちらかといえば不十分」「3.ふつう」「4.どちらかといえば十分」「5.十分」を示す。

3)文化体験分野における各活動の参加充足感

バラつきはあるが、全般的に「2.どちらかといえば不十分」が目立つ結果となった。「陶芸」「映画鑑賞」「絵画・デザイン」については、「不十分」「どちらかといえば不十分」という回答が多い。

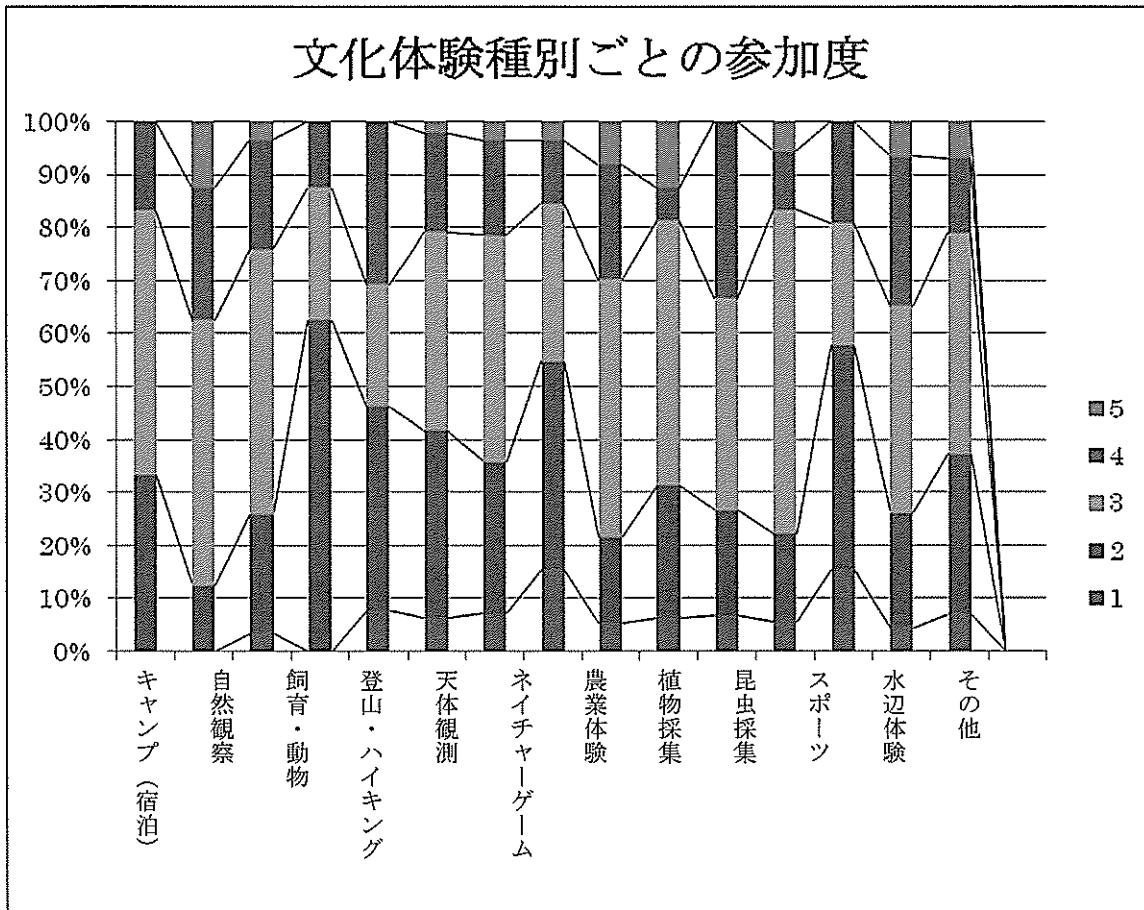


図 24. 文化体験活動分野における各活動の参加充足感

図の指標は、「1.不十分」「2.どちらかといえば不十分」「3.ふつう」「4.どちらかといえば十分」「5.十分」を示す。

(4) 体験活動に対する保護者の参加充足感と、参加に対する否定的理由

体験活動への参加が「不十分」もしくは「どちらかといえば不十分」と回答した対象が参加を迷う主な理由としては、以下が挙げられている。

概ね分野共通にみられる理由としては、「親が忙しくてつれていけない」「体験に関する情報の集め方がわからない」「情報はあるが何を体験させて良いかわからない」というものである。分野別にみられる理由としては、自然体験分野では、「子どもだけで行かせるには安全面で心配がある」こと、生活体験分野では、「体験させたい内容のものが無い」こと、文化体験分野では「参加条件に合わない」こと、「行かせたいが子どもがすぐトラブルを起こしそう」ということが理由として挙げられている。

これらの理由を踏まえると、共働き世帯が増えている今日において、仕事と家事を両立させる多忙な日々にあっても体験活動に関する情報を得やすい環境を整えることが、参加促進の一助になる可能性がある。

また、分野ごとの特性に合わせて、自然体験分野ではリスクマネジメントを、生活体験分野では内容のブラッシュアップを、文化体験分野では子どもの年齢に応じたプログラム作りや環境を整えることが、参加促進へのポイントと言えるのではないだろうか。

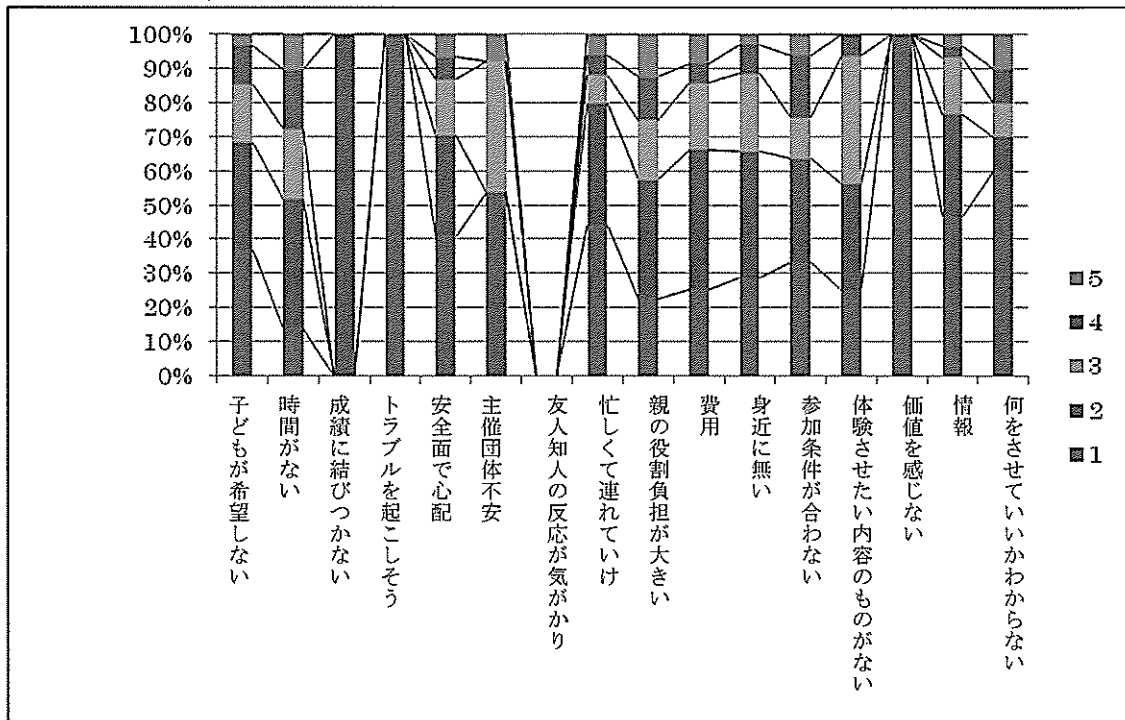


図 25. 参加充足感と参加を迷う理由 (自然体験活動分野)

図の指標は、「1.不十分」「2.どちらかといえば不十分」「3.ふつう」「4.どちらかといえば十分」「5.十分」を示す。

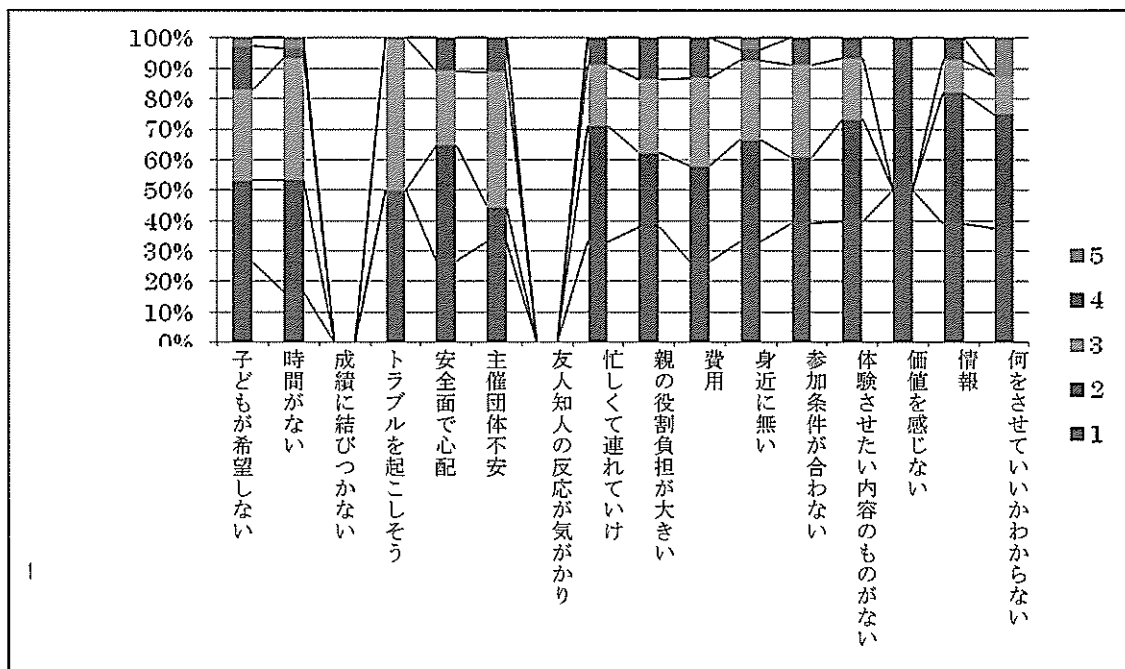


図 26. 参加充足感と参加を迷う理由 (生活体験活動分野)

図の指標は、「1.不十分」「2.どちらかといえば不十分」「3.ふつう」「4.どちらかといえば十分」「5.十分」を示す。

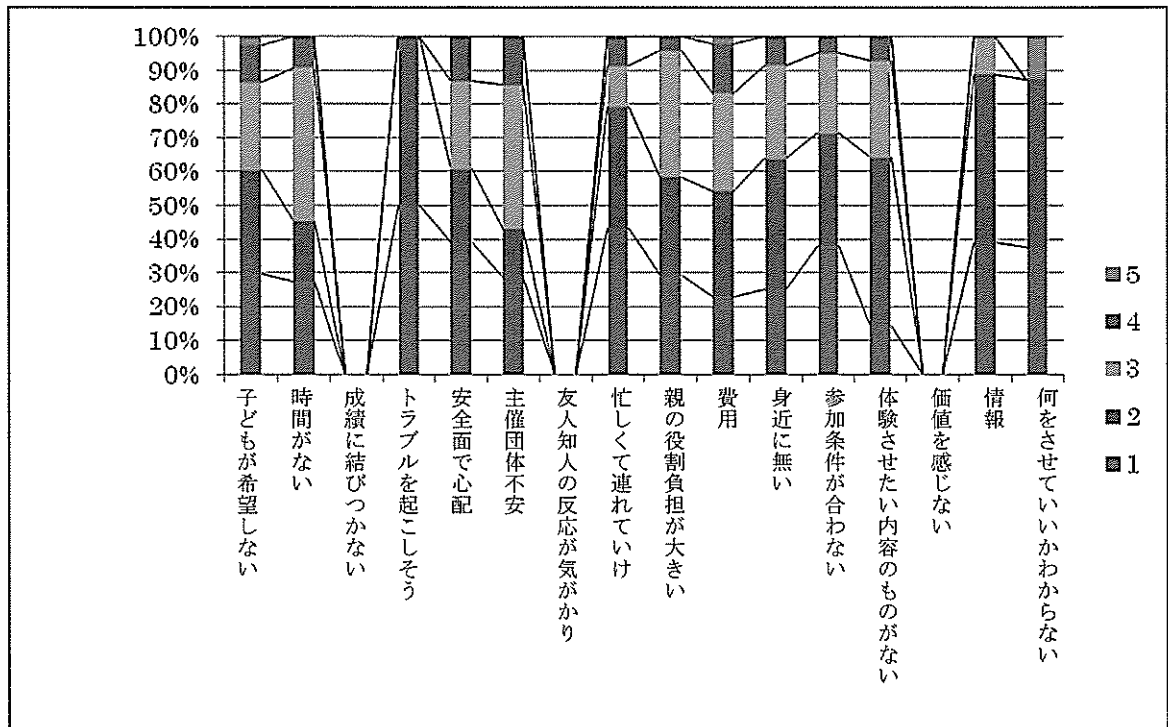


図 27. 参加充足感と参加を迷う理由(文化体験活動分野)

図の指標は、「1.不十分」「2.どちらかといえば不十分」「3.ふつう」「4.どちらかといえば十分」「5.十分」を示す。

(5) 体験活動に参加させていない保護者が参加を迷う理由

体験活動に参加させていない保護者が、参加を迷う理由として主なものは、いずれの分野においても「子どもが希望しない」こと「親が忙しくてつれていけない」ことが挙げられている。また生活体験分野においては、「親の役割負担が大きい」ことも、その一因となっているようである。

この結果をみると、子どもの希望が保護者の判断基準になっている。また、保護者に自信がない、保護者自身が体験して良かったと思った体験が少ないともいえる。子に豊かな体験をさせるためには、保護者を取り巻く環境改善が必要であることがわかる。保護者がゆとりをもち子育てできる環境を整えていきつつ、なおかつ日常生活における体験活動の優先順位を高めるためには、体験活動の魅力や意義を可視化し、保護者にわかりやすく伝えていくことも必要である。

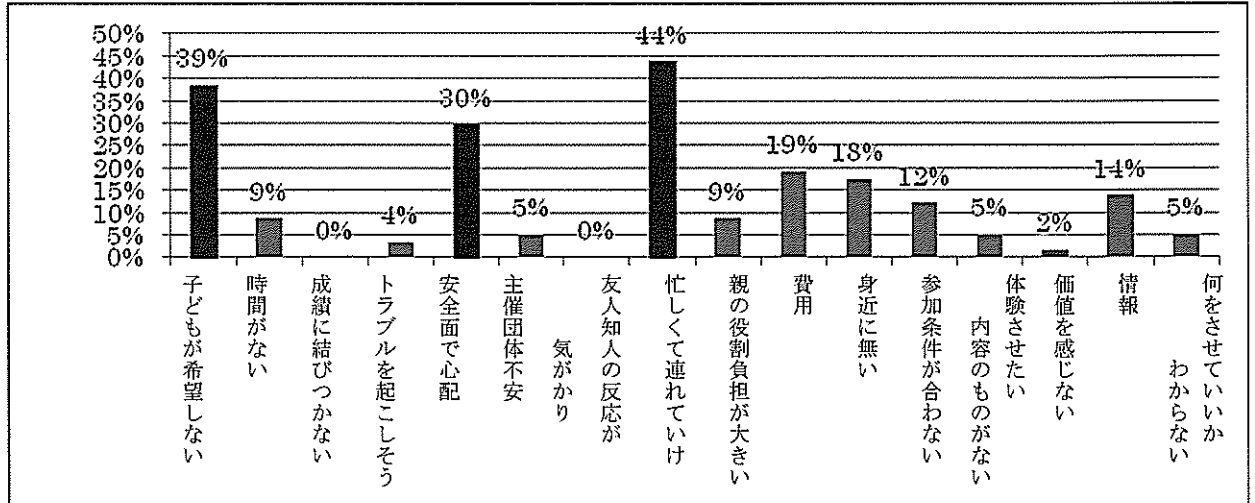


図 28. 自然体験活動へ参加をさせていない保護者が、参加を迷う理由

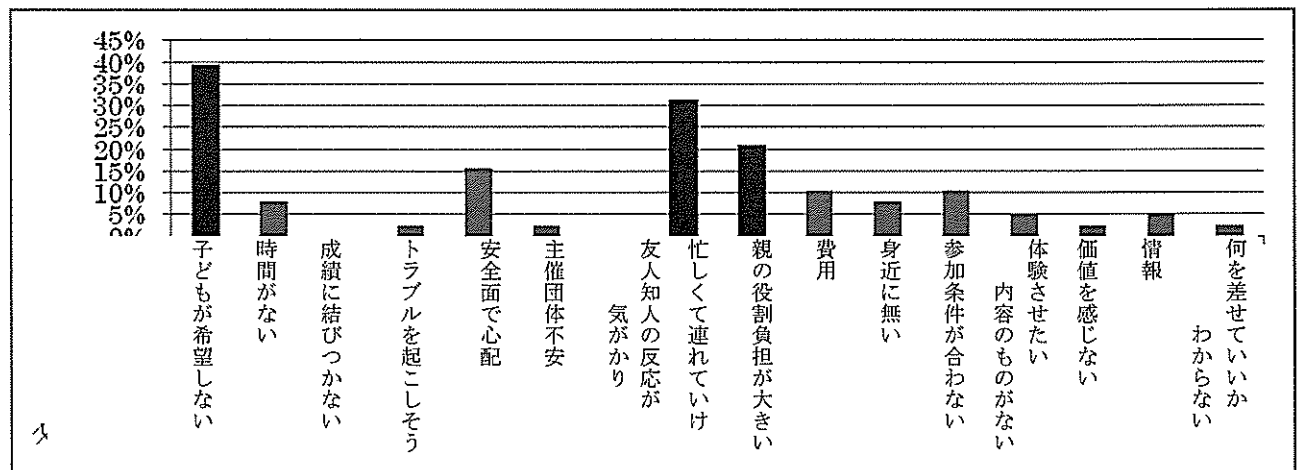


図 29. 生活体験活動へ参加をさせていない保護者が、参加を迷う理由

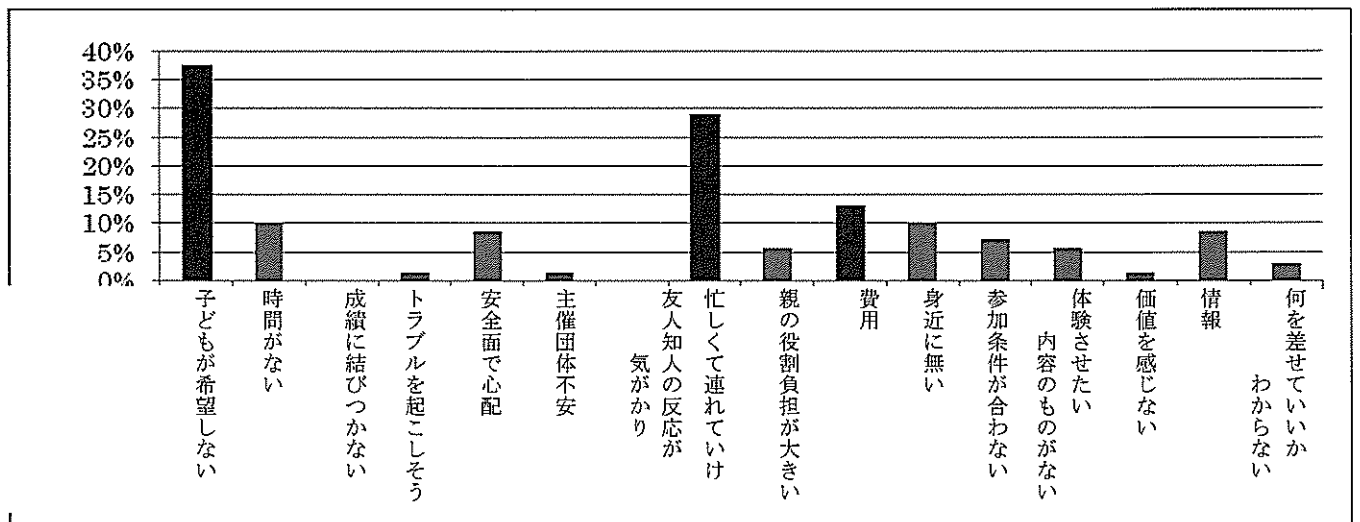


図 30. 文化体験活動へ参加をさせていない保護者が、参加を迷う理由

(6) 体験活動の効果に対する実感について

効果に対する実感という点では、「どちらかといえば効果的だった」「効果的だった」という回答が七割近くを占めるものが多く、保護者の実感としては、体験活動は子の成長に対して概ね効果的と感じている。

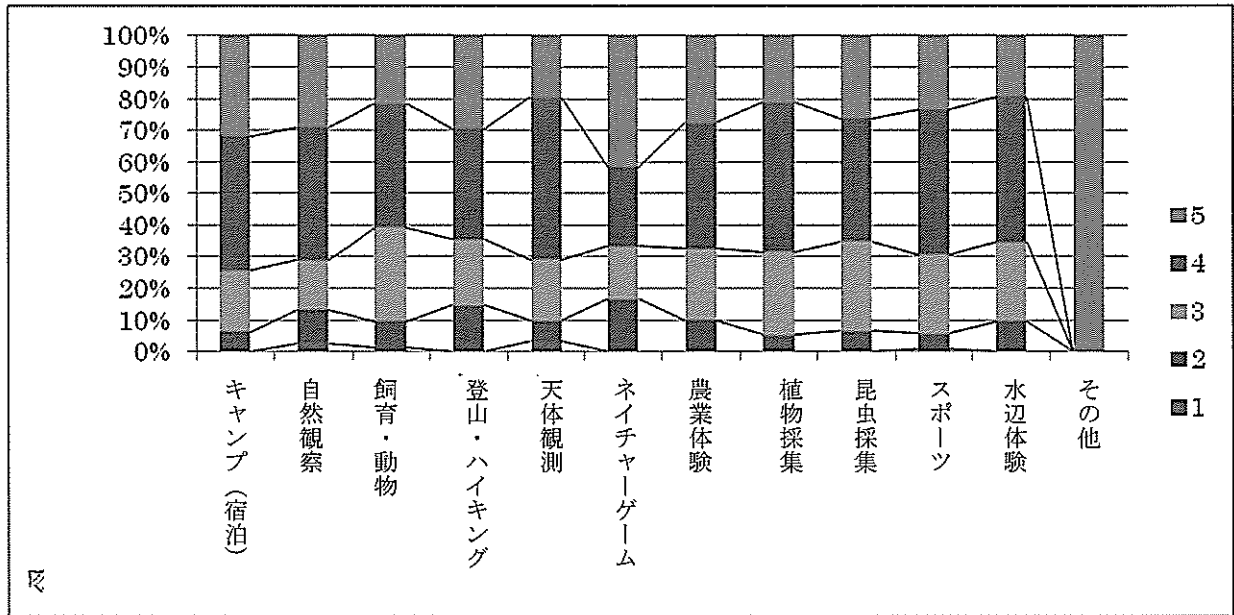


図 31. 自然体験・スポーツ活動の効果に対する実感

図の指標は、「1.効果的でなかった」「2.どちらかといえば効果的でなかった」「3.ふつう」「4.どちらかといえば効果的だった」「5.効果的だった」を示す。

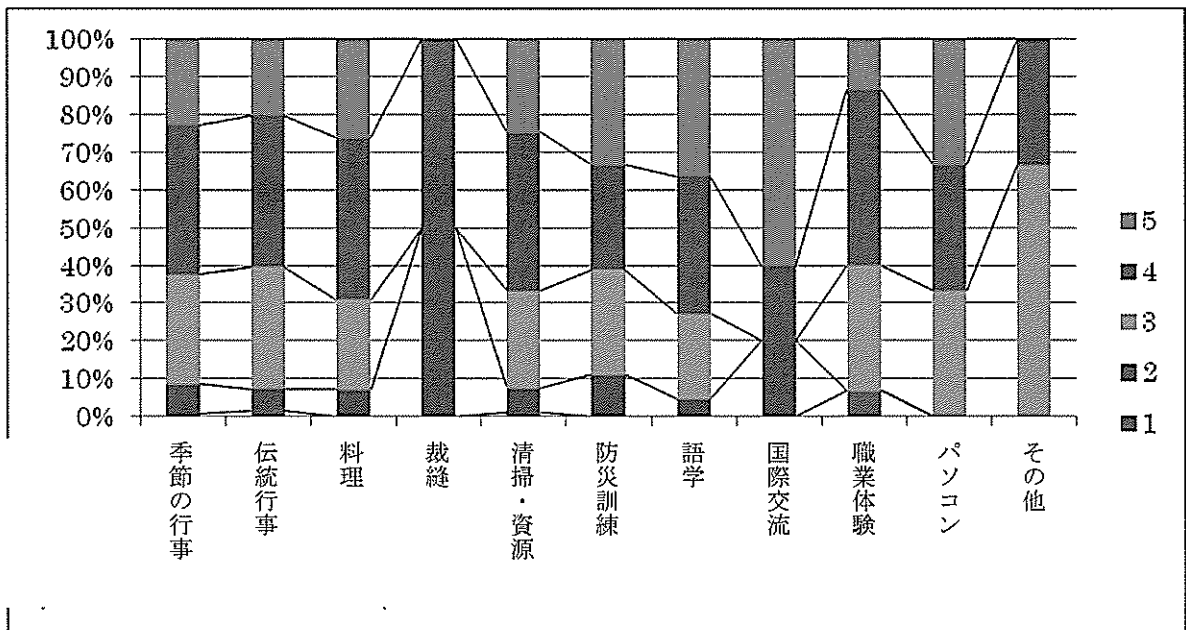


図 32. 生活体験活動の効果に対する実感

図の指標は、「1.効果的でなかった」「2.どちらかといえば効果的でなかった」「3.ふつう」「4.どちらかといえば効果的だった」「5.効果的だった」を示す。

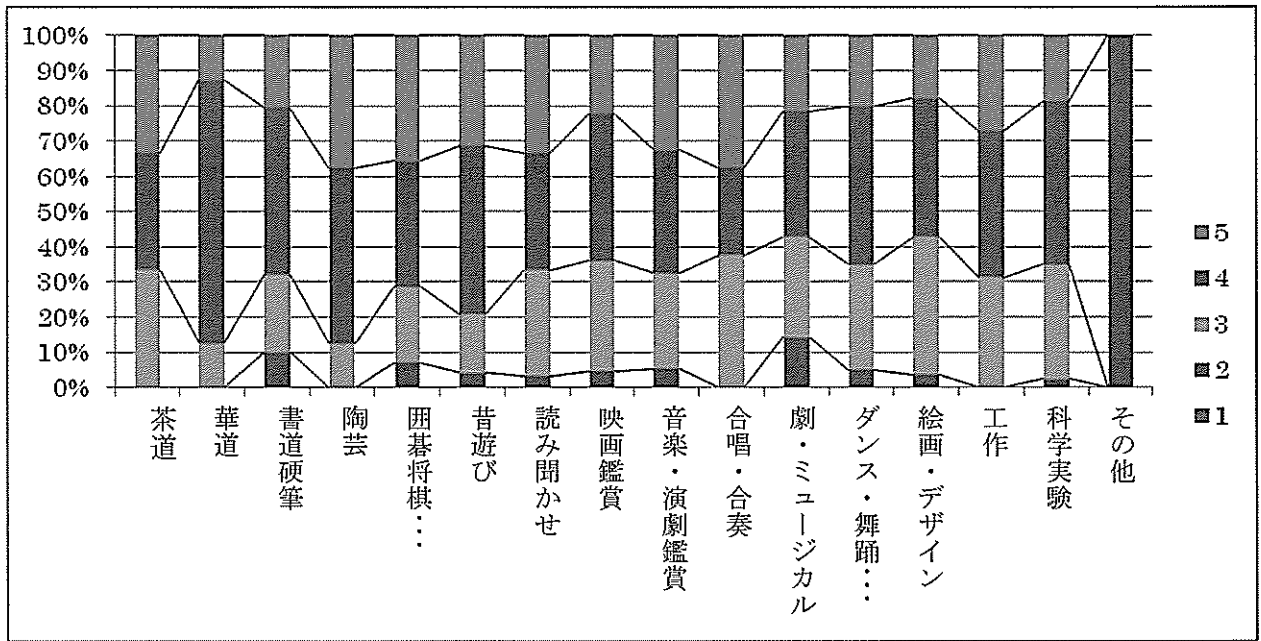


図 33. 文化体験活動の効果に対する実感
 図の指標は、「1.効果的でなかった」「2.どちらかといえば効果的でなかった」「3.ふつう」「4.どちらかといえば効果的だった」「5. 効果的だった」を示す。

3. 調査2「自立する子どもを育むための体験活動調査(団体)」

3-1. 調査のねらい

岡山市で子どもたちに体験活動を提供している団体・施設における参加者の現状と課題を明らかにする。それらの実態から、課題解決の支援策を検討する。加えて、団体側が、体験活動の機会拡充と質の向上に向けて必要と考えていることを明らかにし、今後の体験活動の在り方検討への一助とする。

3-2. 調査概要

- (1) 対象 岡山市内で体験活動を提供している、民間非営利団体、公共施設等、752 団体。
- (2) 手法 アンケート調査
各種データベースから岡山市内の団体を抽出した。

3-3. 調査結果及び考察

調査票は 752 通配布し、144 の団体から回答を得た。(回収率 19.1%)。

各団体から寄せられた活動は合計 380 件である。今回の調査では、各団体に関する分析と、各活動に関する分析を合わせて行うことにする。なお、自然体験・スポーツ活動はスポーツ活動が突出して多かったため、別に項目立てをして分析しているところがある。

(1) 体験活動への参加者の増減

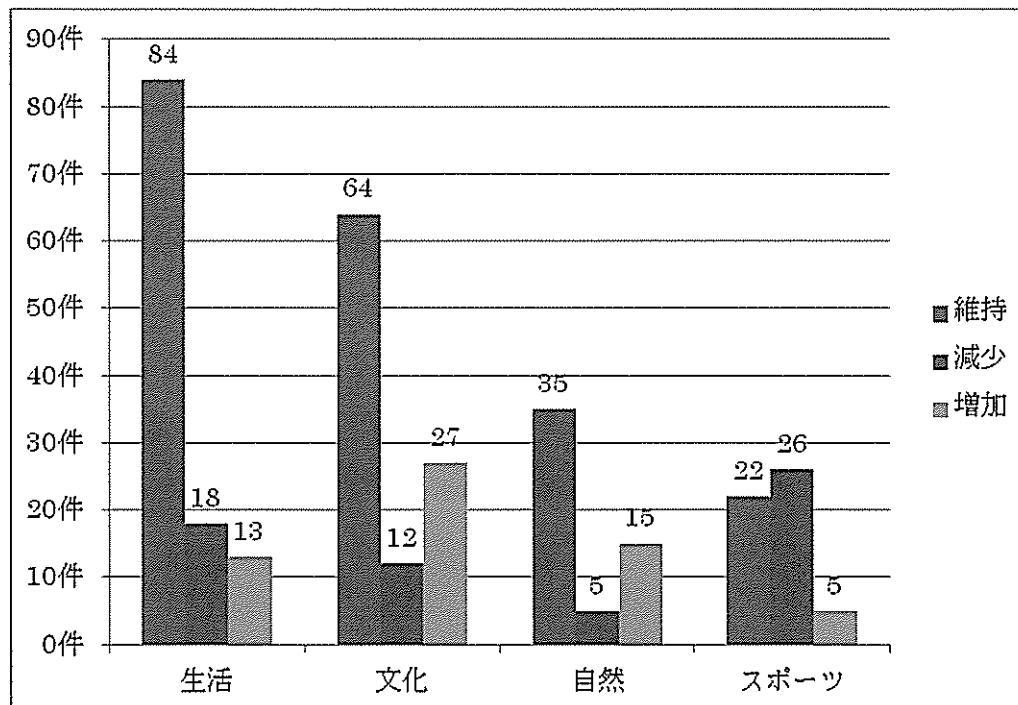


図 34 体験活動への参加者の増減

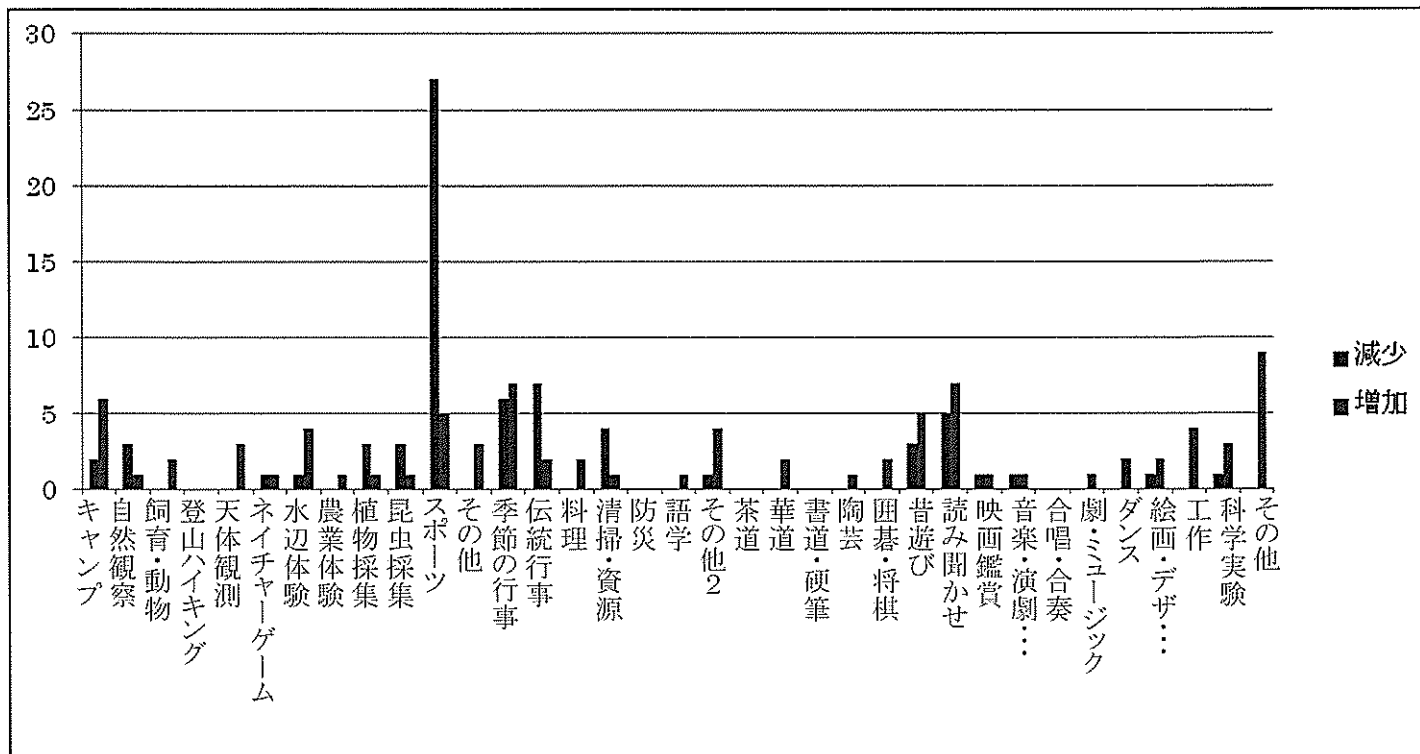


図 35 体験活動への参加者数の増減状況(件)

スポーツ体験及び、生活体験である伝統行事、清掃活動・資源回収への参加については、大きく減少している。一方で、キャンプ(自然体験)、読み聞かせ・工作・科学実験などの文化体験は参加者が増加している。生活体験の伝統行事や清掃活動といった、どちらかという地域で実施される活動は減少傾向にある様子。

(2) 体験活動への参加者数について

1) 参加者数の増加理由

参加者増の理由としては、子どもの興味・関心があること、親子で参加ができること、費用が安いこと等が考えられている。これらは概ね、保護者が体験活動を選ぶ際の理由と一致している。

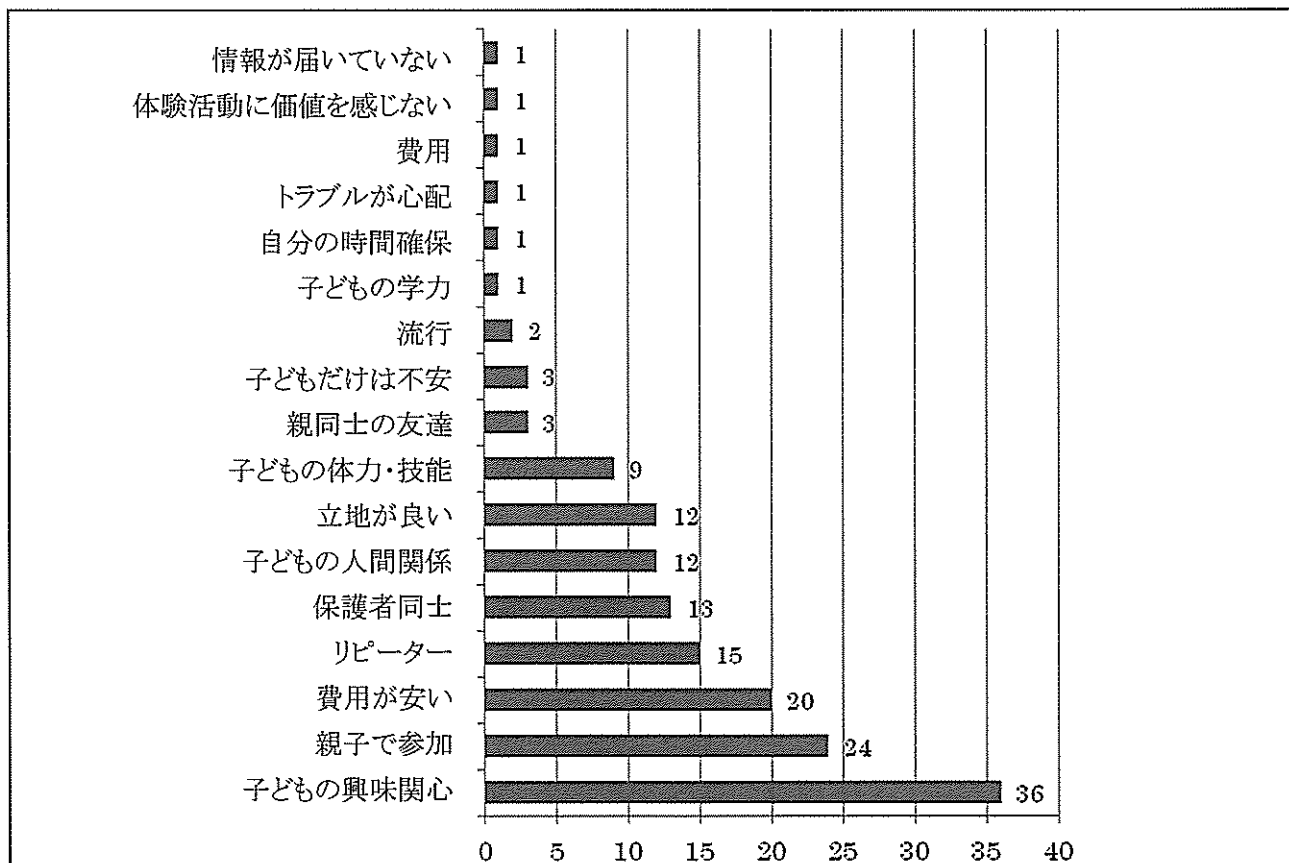


図 36 参加者数の増加理由(件)

2)参加者数の減少理由

参加者数が減少している理由として団体が感じていることは、保護者が忙しいこと、子どもをつれていく時間がないこと、保護者の役割負担が大きいことである。これは、保護者が参加を迷う理由と概ね一致している。

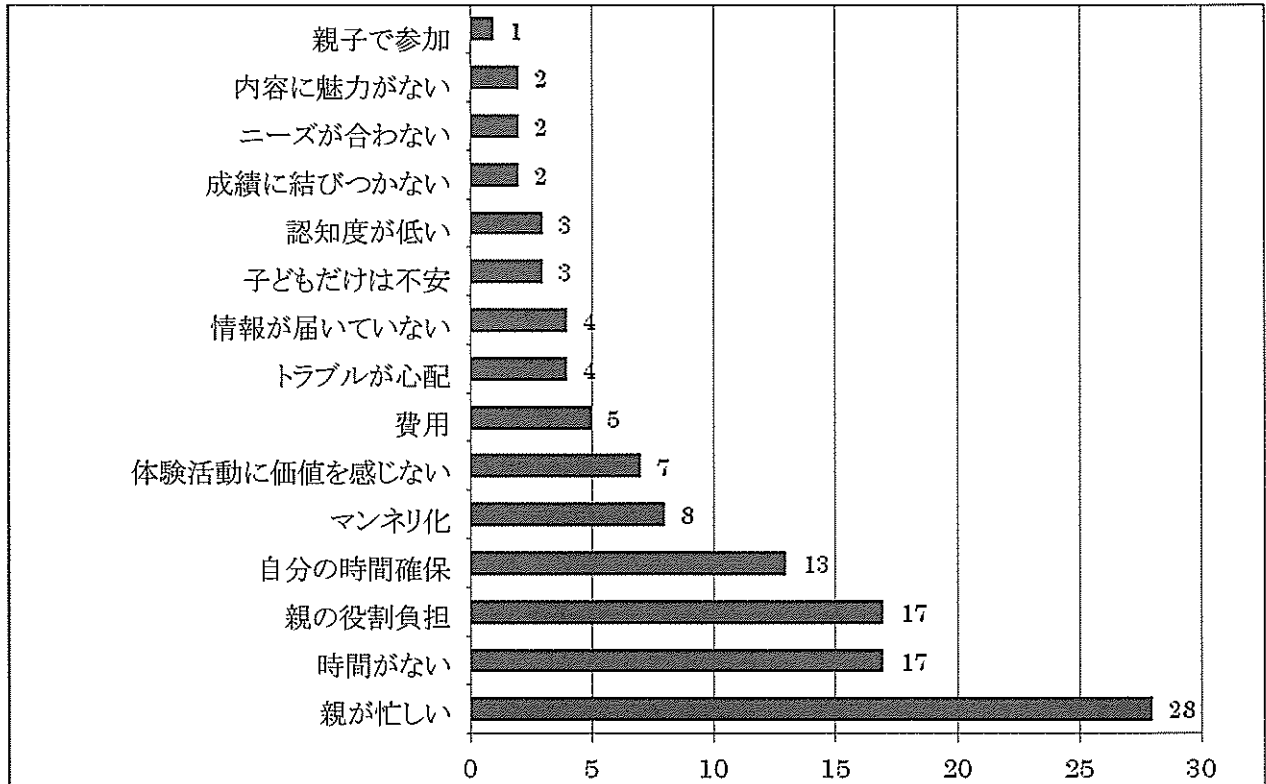


図 37 参加者数の減少理由 (件)

3)参加者数維持の理由

参加者数を維持している活動については、親子で参加できることや、子どもの興味・関心があること等が理由として挙げられている。

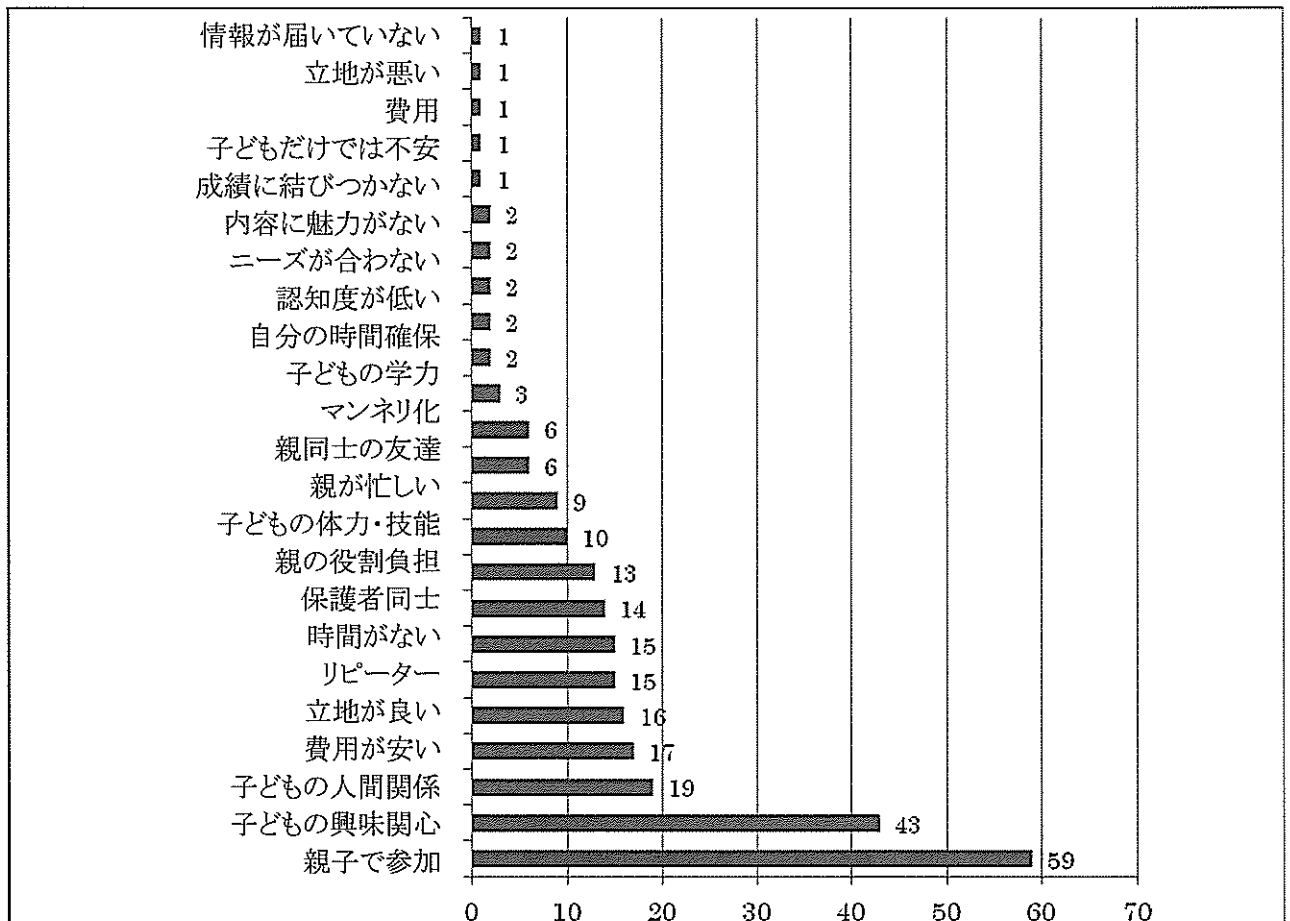
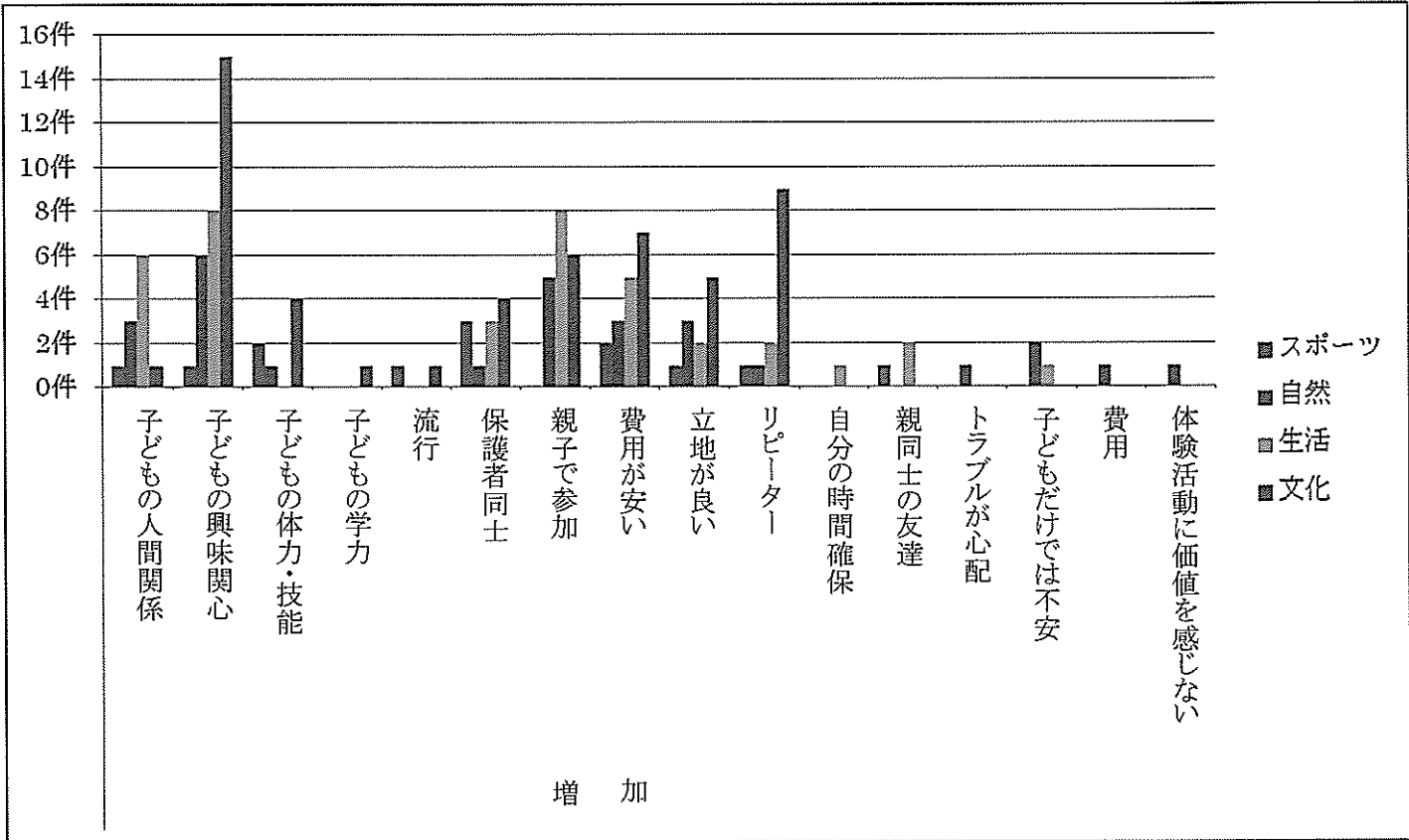


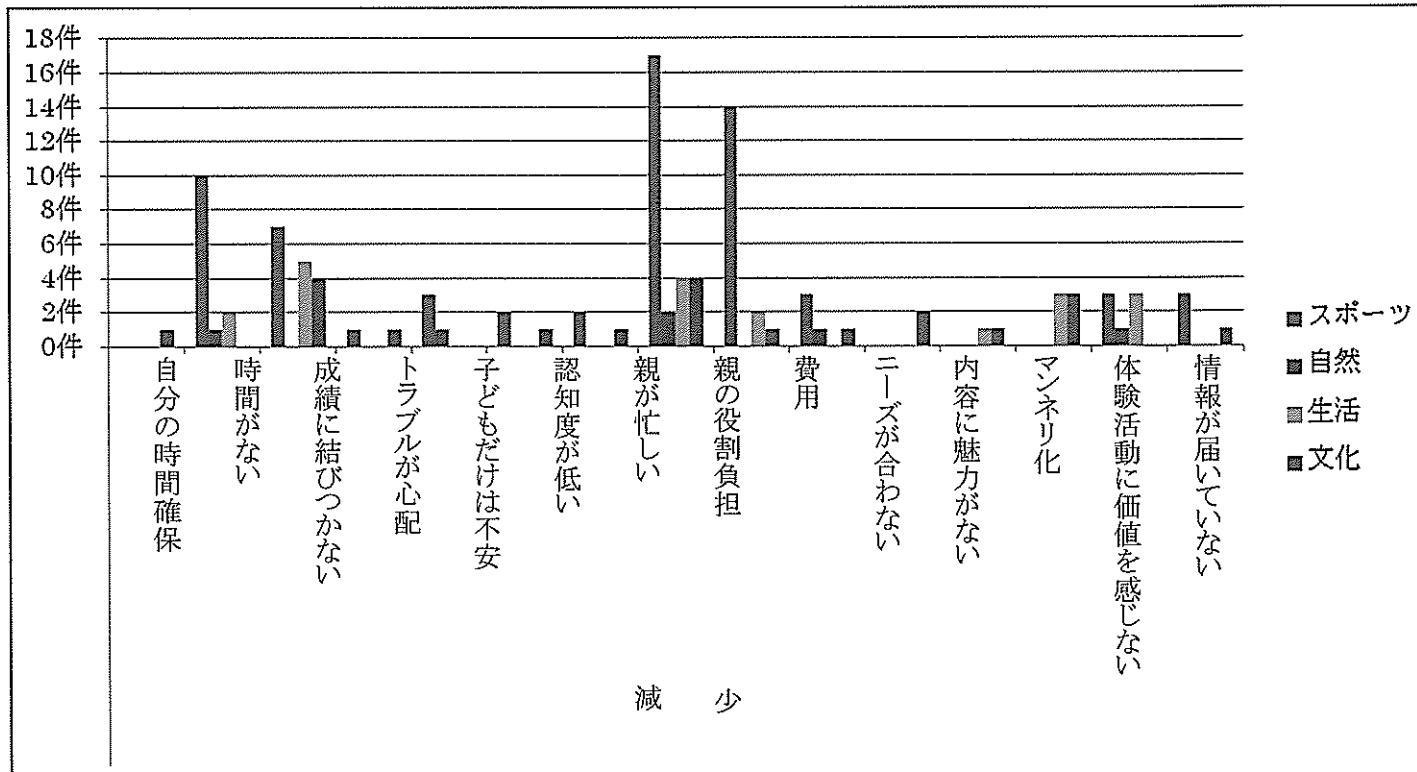
図 38 参加者維持の理由 (件)

体験内容ごとの増減の理由



増加

図 39 増加の理由



減少

図 40 減少の理由

(3) 体験活動プログラムを提供する上での団体側における課題

一般的には、負担を嫌がる保護者の増加が最も大きな課題として現れている。加えてスタッフの育成など担い手の課題や、プログラムのマンネリ化や広告効果の課題、そして運営経費面での課題などが確認できる。

団体種別ごとに見ていくと、NPO/市民活動団体においては、広告効果が最大の課題となっており、次いで、担い手の育成、経費不足、会場確保といった、運営面での課題が確認できる。一方、スポーツ少年団や子ども会といった地域団体では、負担を嫌がる保護者の増加が最大の課題となっており、担い手の減少が推測される。また参加者数の減少も課題として確認できる。子ども会については、プログラムのマンネリ化に陥っている様子が見受けられる。公民館においては、他団体と共通した課題がある一方で、団体側の意図が参加者に伝わらないということも課題としてとらえられている。図書館や、美術館/動物園/植物園等の分野では、広告効果がないことや、情報発信が苦手であることなどが課題としてとらえられている。

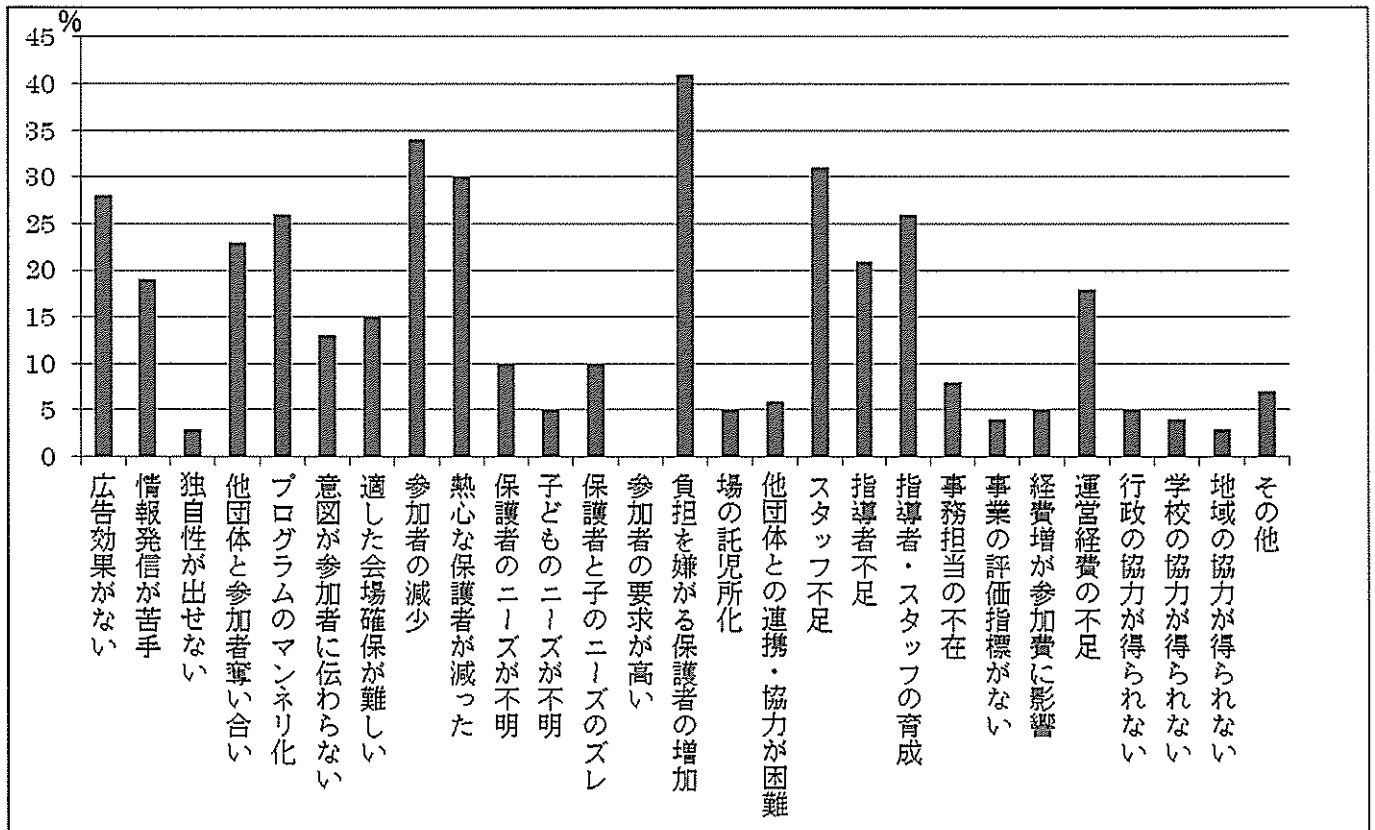


図 41 体験活動提供上の課題(全体)

NPO/市民活動団体

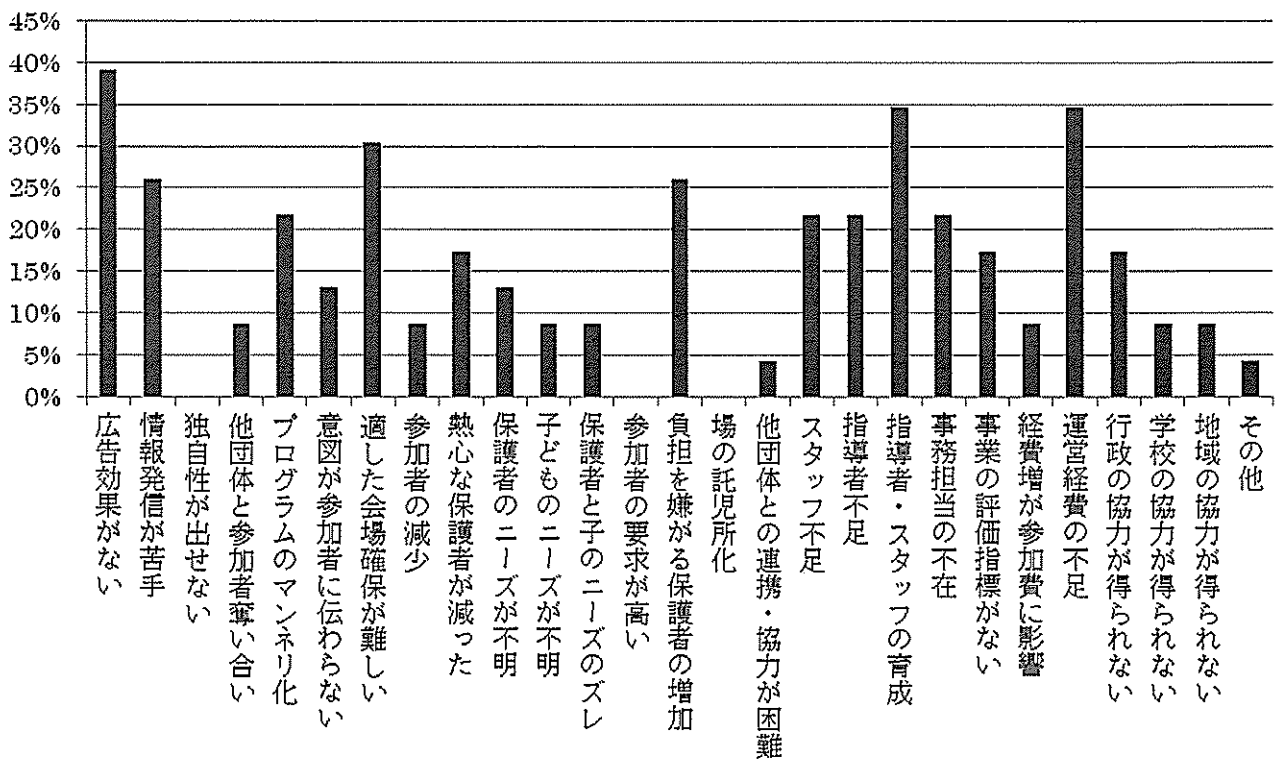


図 42 体験活動提供上の課題(NPO/市民活動団体)

スポーツ少年団

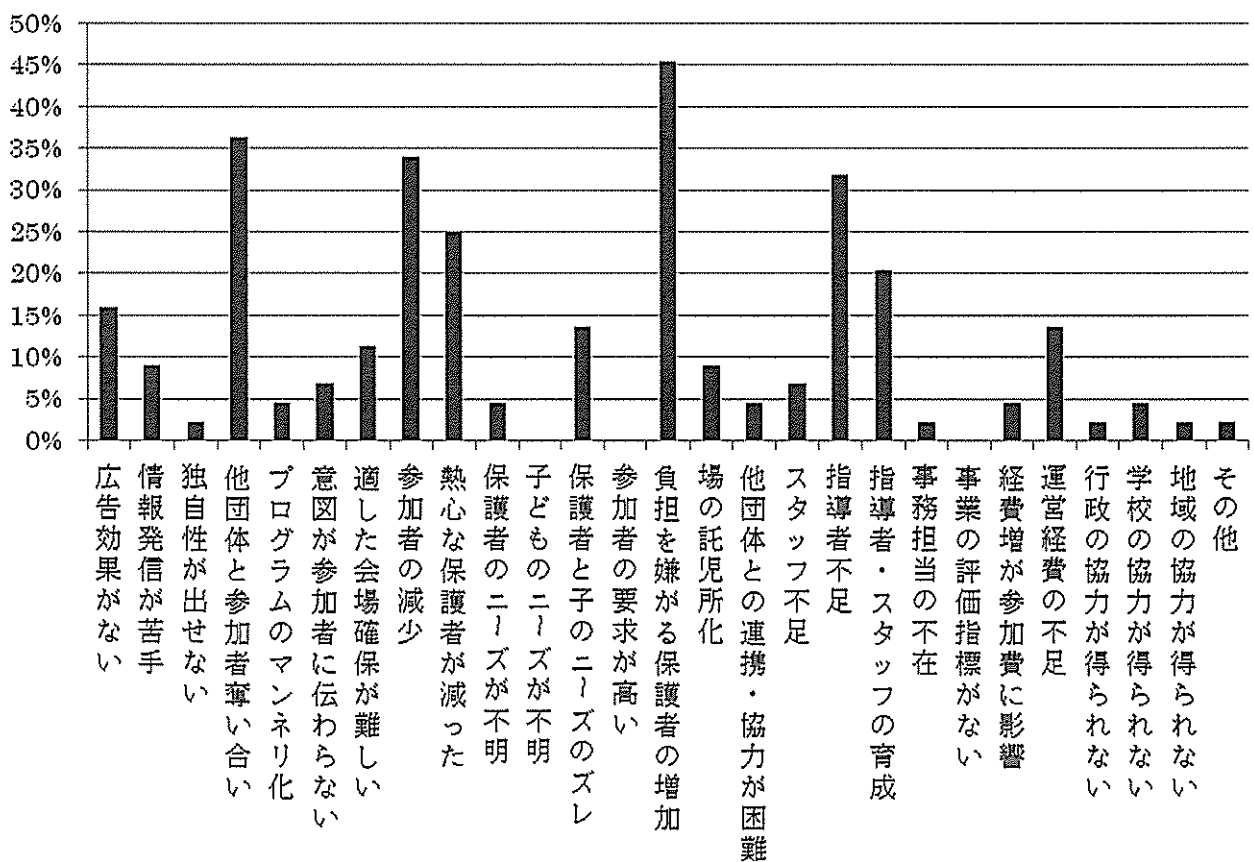


図 43 体験活動提供上の課題(スポーツ少年団)

子ども会

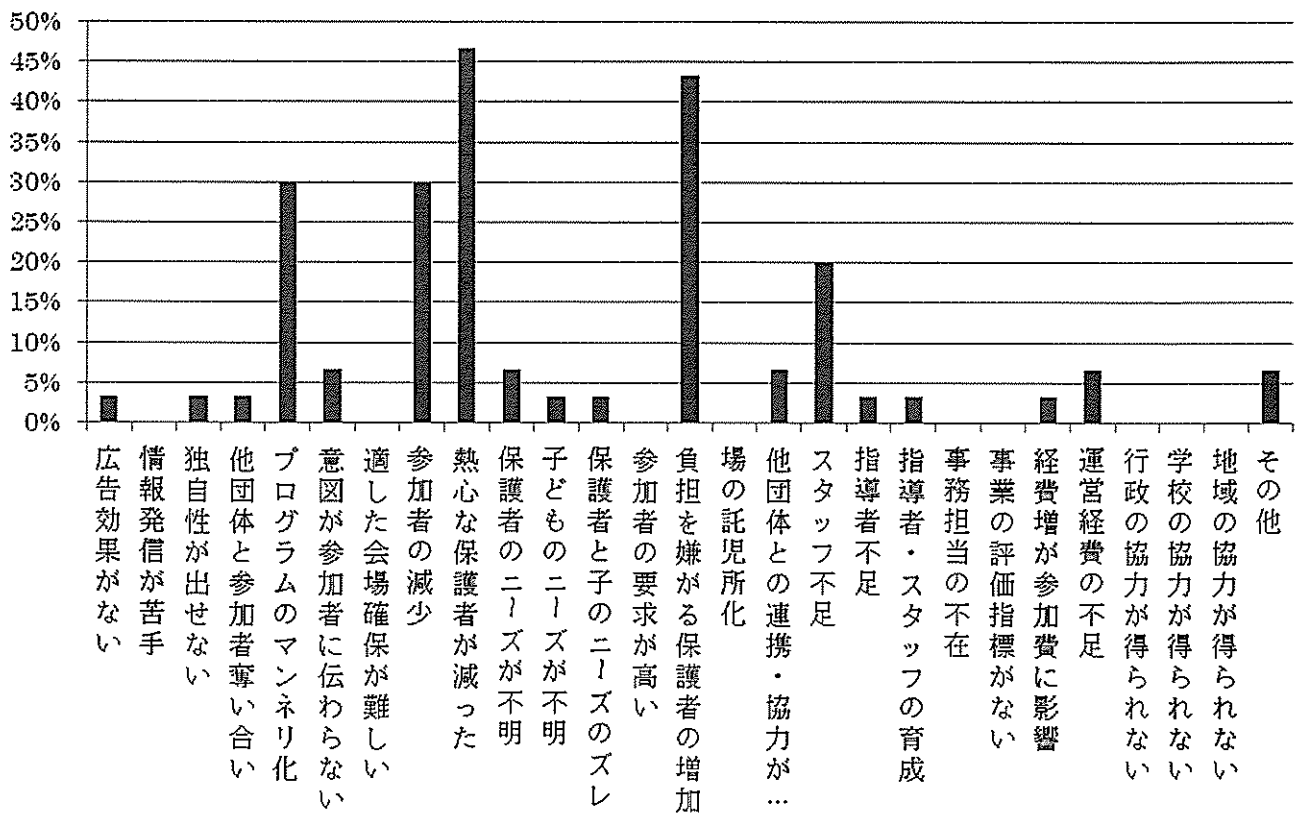


図 44 体験活動提供上の課題(子ども会)

公民館

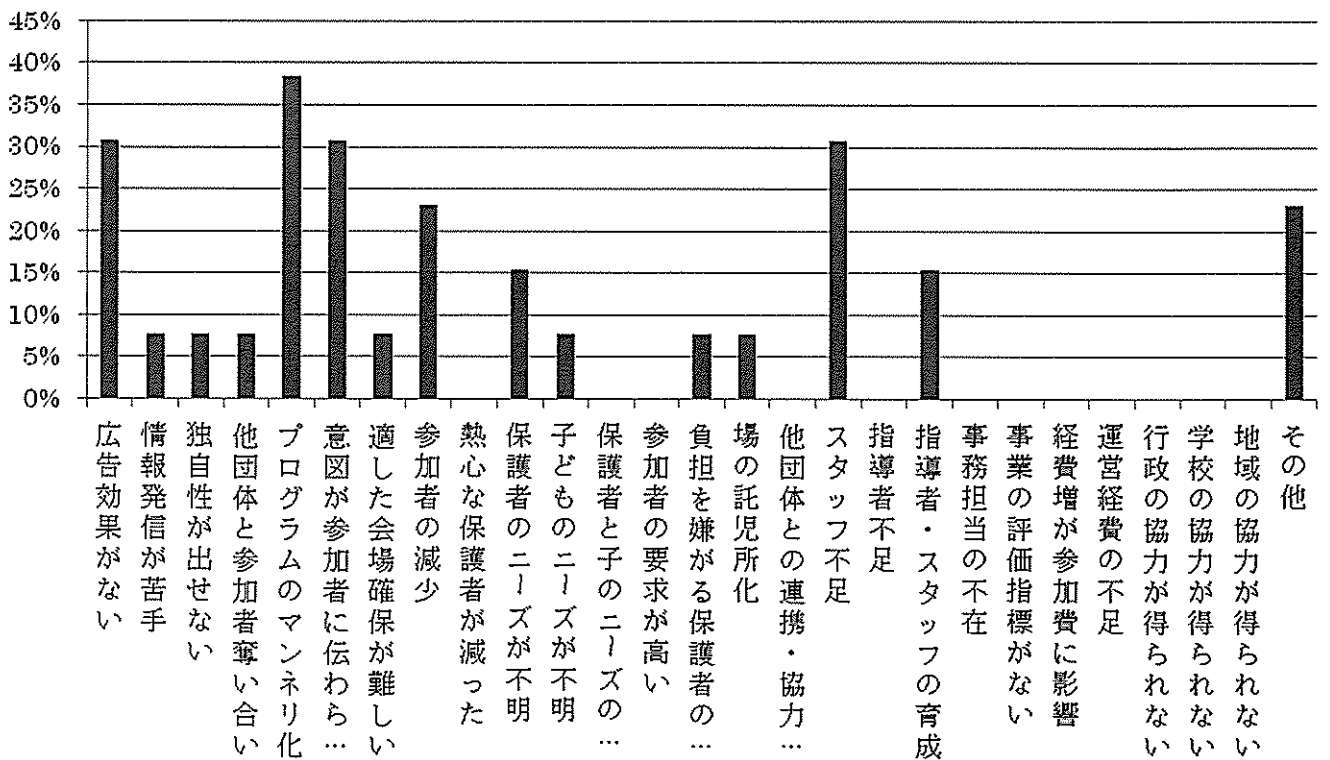


図 45 体験活動提供上の課題(公民館)

図書館

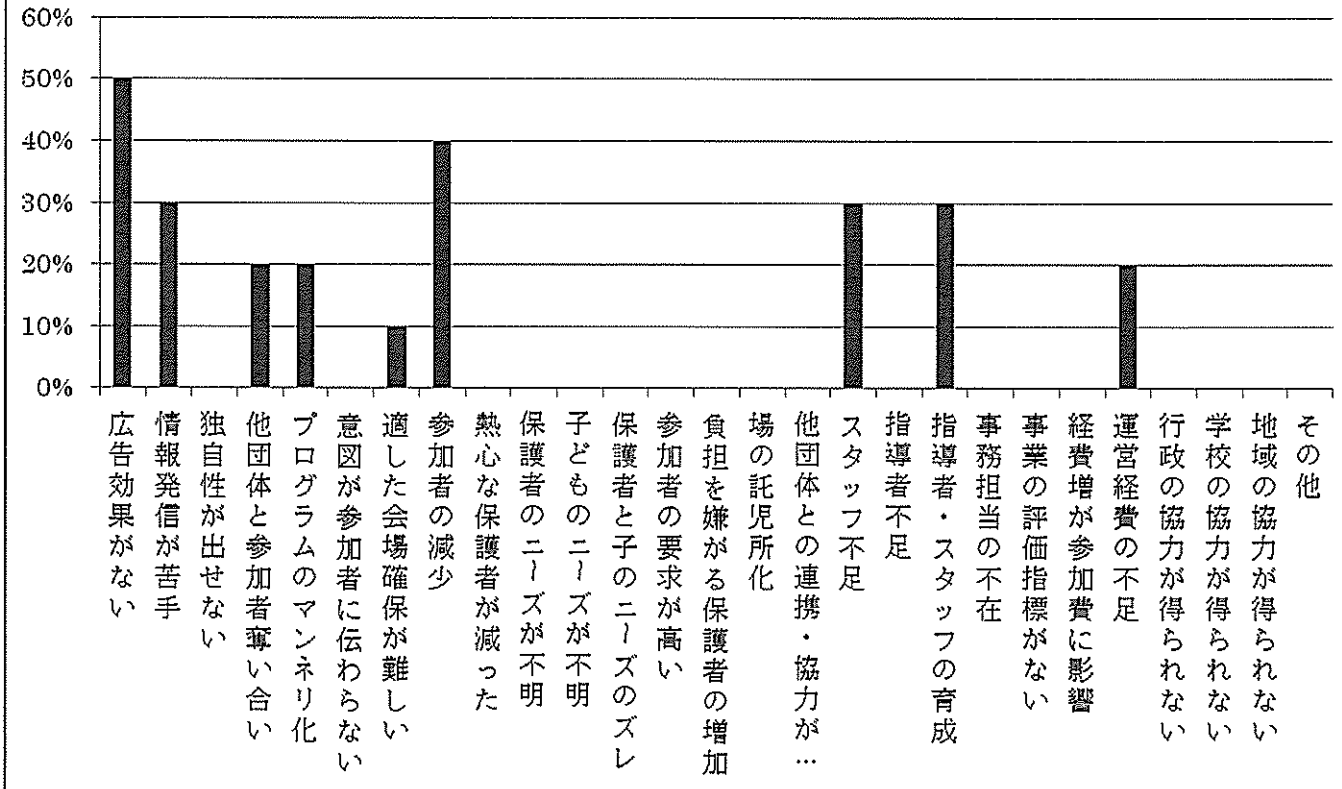


図 46 体験活動提供上の課題(図書館)

美術館/動物園/植物園等

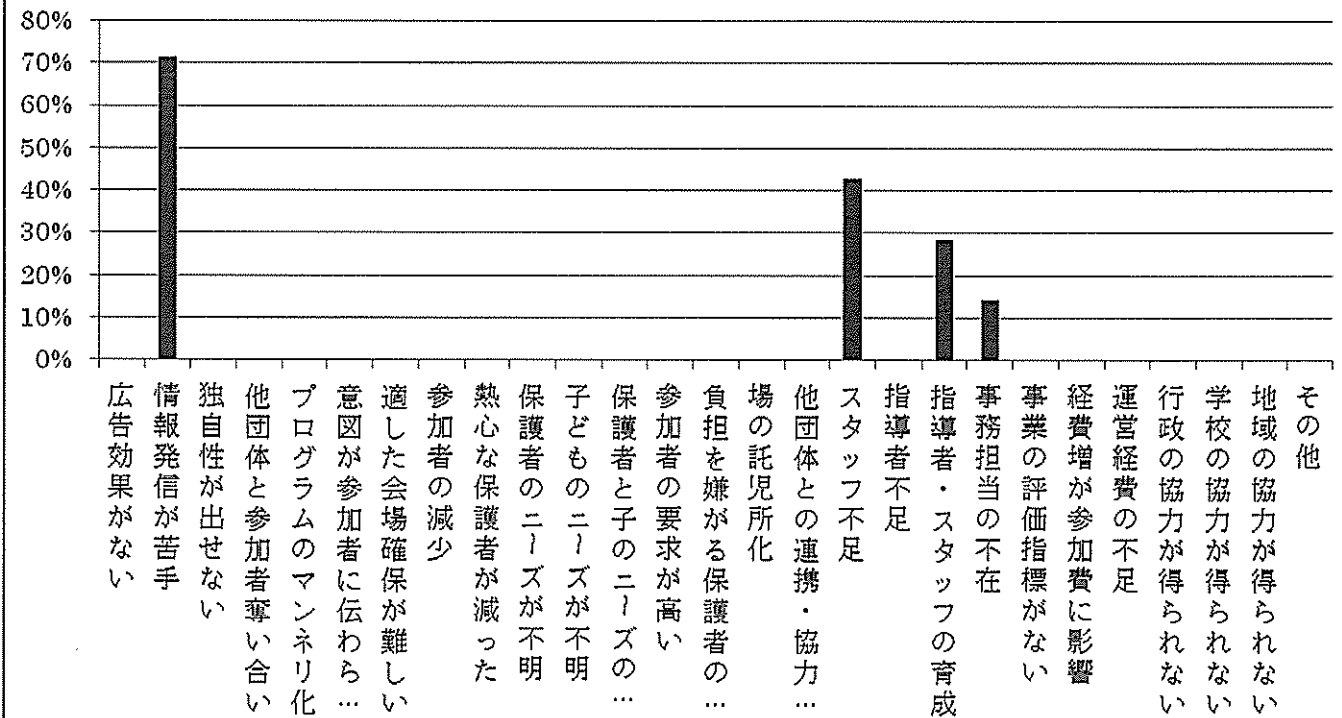


図 47 体験活動提供上の課題(美術館/動物園/植物園等)

(4) 事業をする上で改善したい点

前述(3)のとおり、体験活動を提供する上で、団体種別ごとに課題は存在している。それらの現状に対して、団体がどのような点を改善したいと考えているかを明らかにした。

団体種別ごとでバラつきはあるものの、大きくは、「情報発信方法」「ボランティア募集・育成」が、改善したい点として挙がっている。

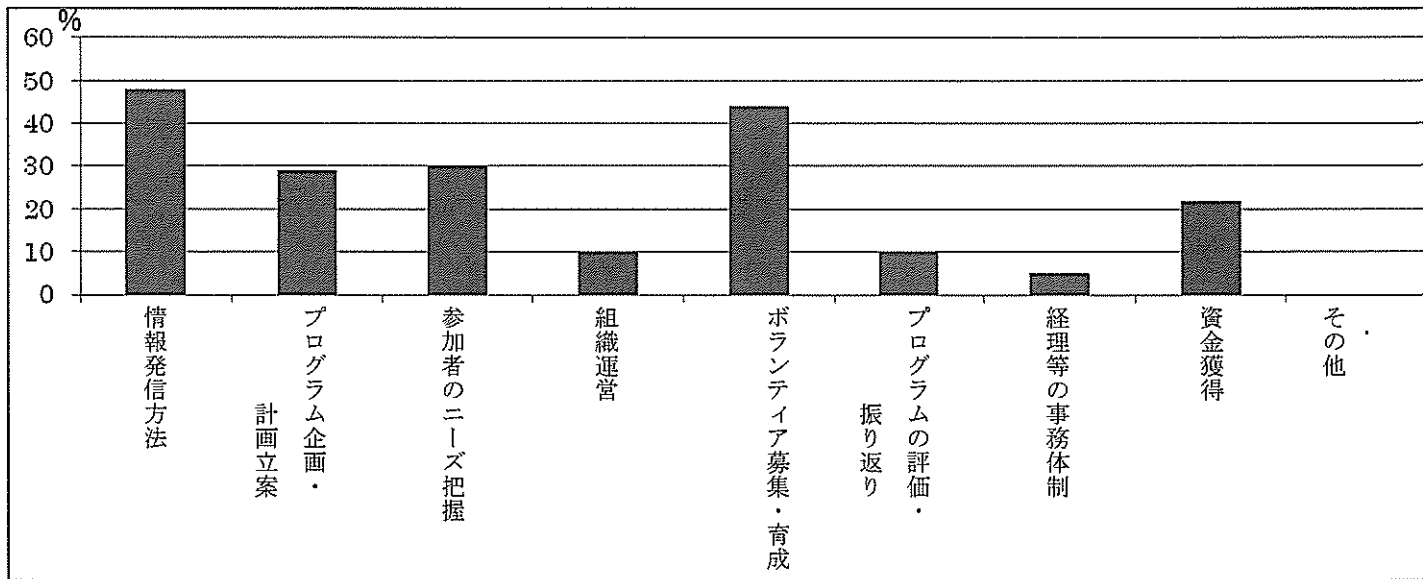


図 48 改善したい点(全体)

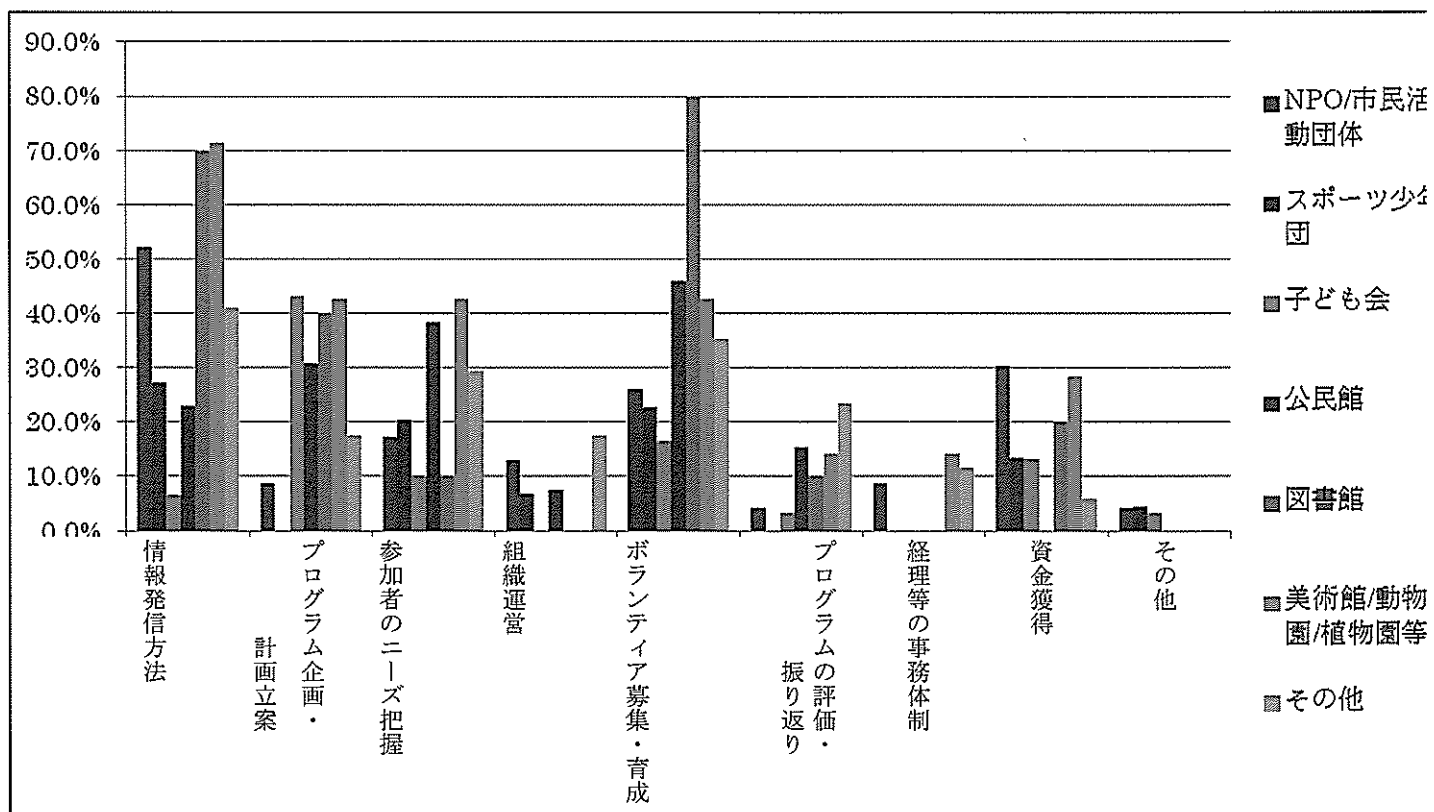


図 49 改善したい点(団体種別ごと)

(5) 事業をする上で改善したい点および必要とする支援(図 51～56)

(4)で述べた改善したい点に対して、どういった支援を必要としているかを明らかにした。全体的には、「セミナー・研修」「マニュアル提供」を支援として求めている傾向が確認できる。

団体種別ごとにみると、スポーツ少年団や子ども会、美術館/博物館/動物園等が求める支援として「マニュアル提供」が目立つのに対し、公民館や図書館が求める支援としては、「セミナー・研修」が目立つ結果となった。

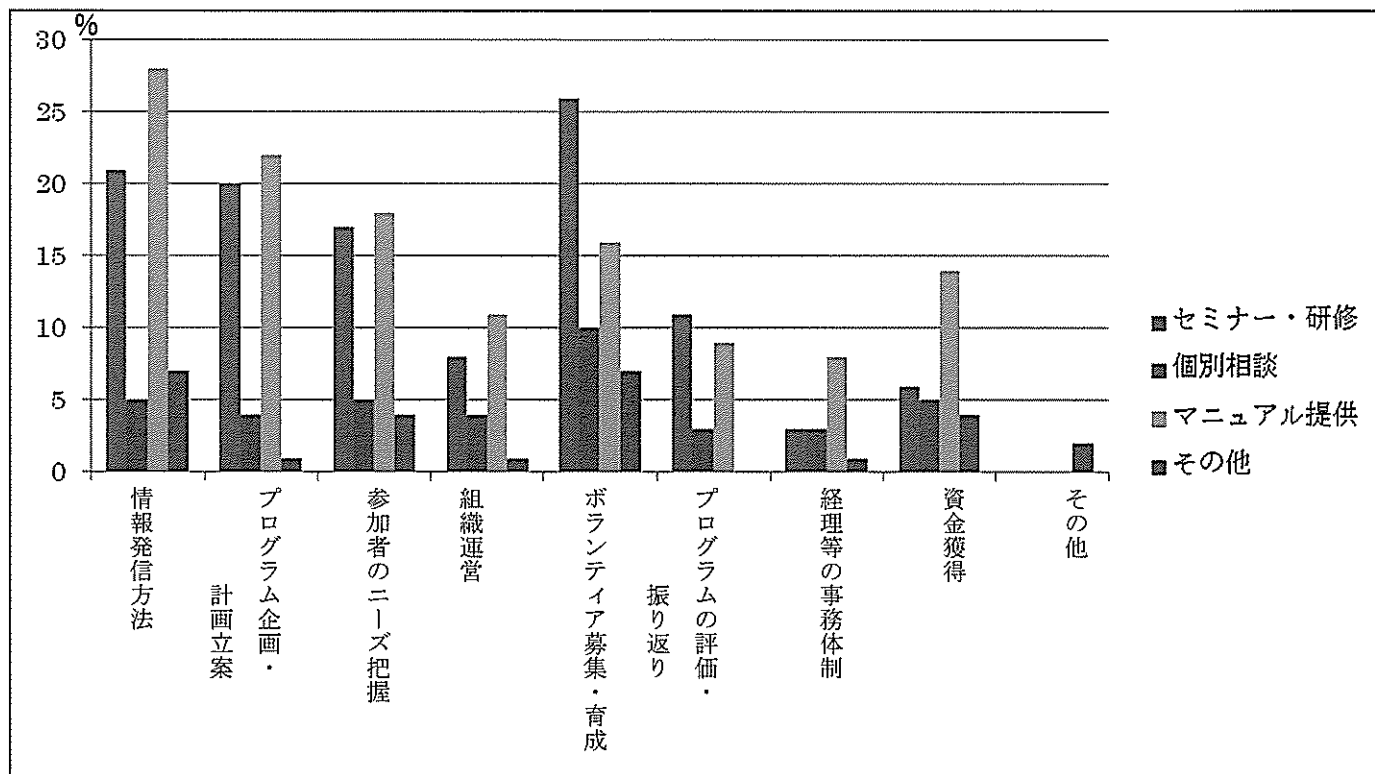


図 50 改善したい点と必要な支援(全体)

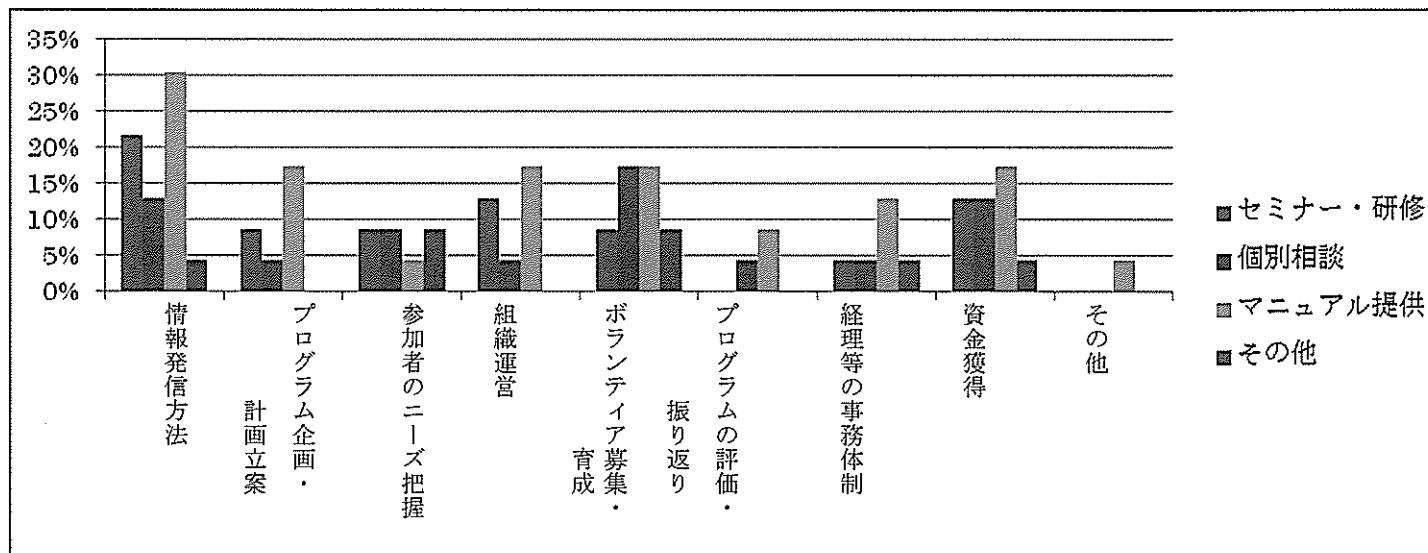


図 51 改善したい点と必要な支援(NPO/市民活動団体)

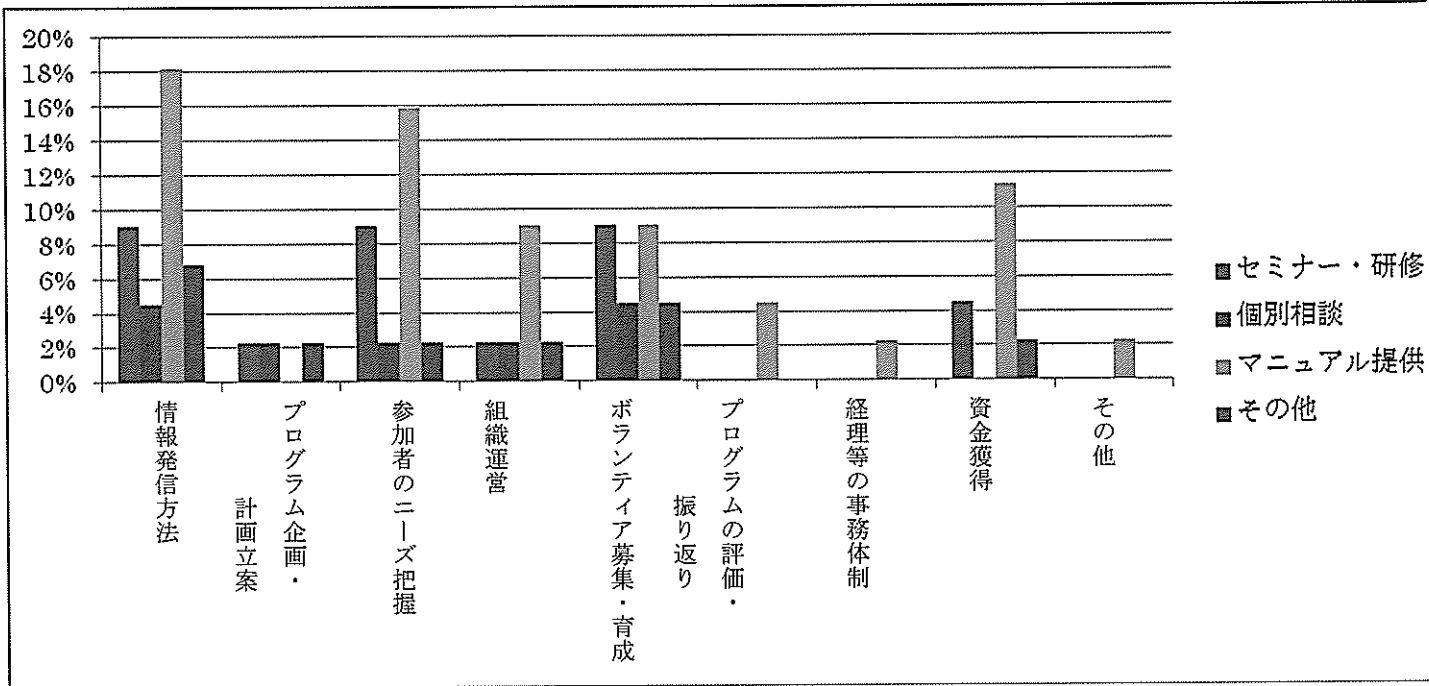


図 52 改善したい点と必要な支援(スポーツ少年団)

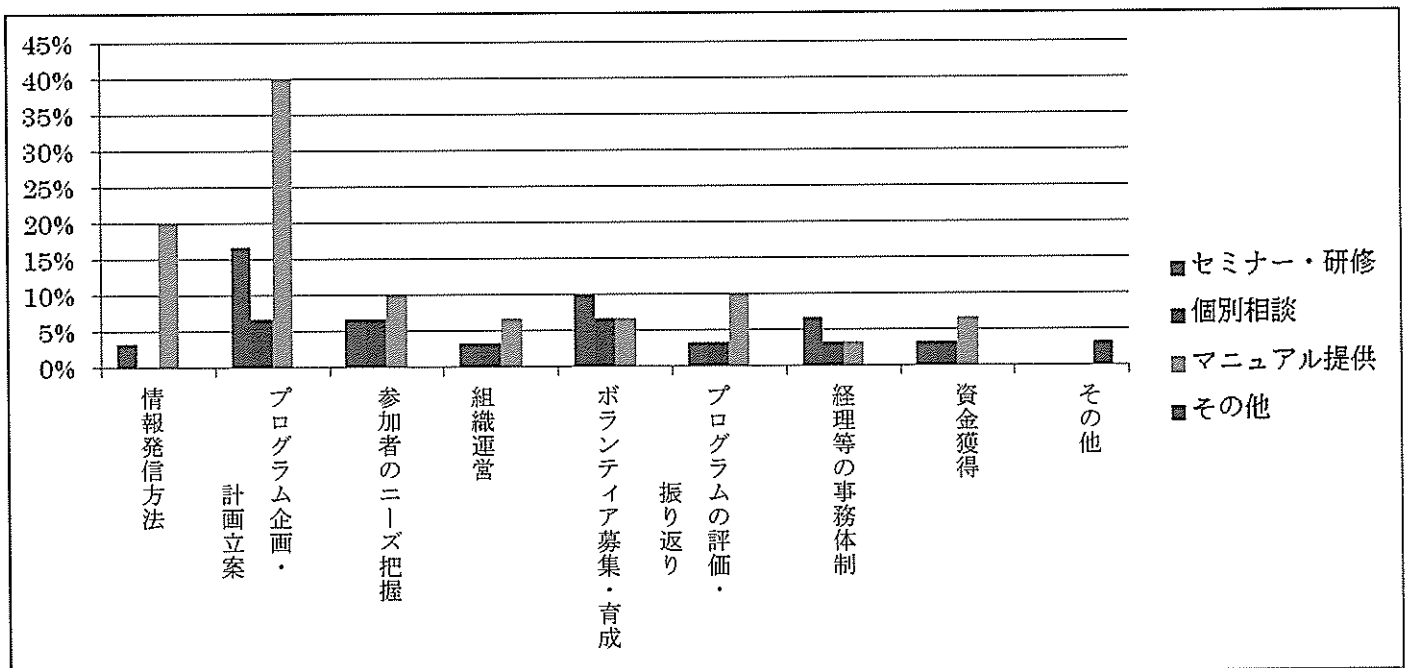


図 53 改善したい点と必要な支援(子ども会)

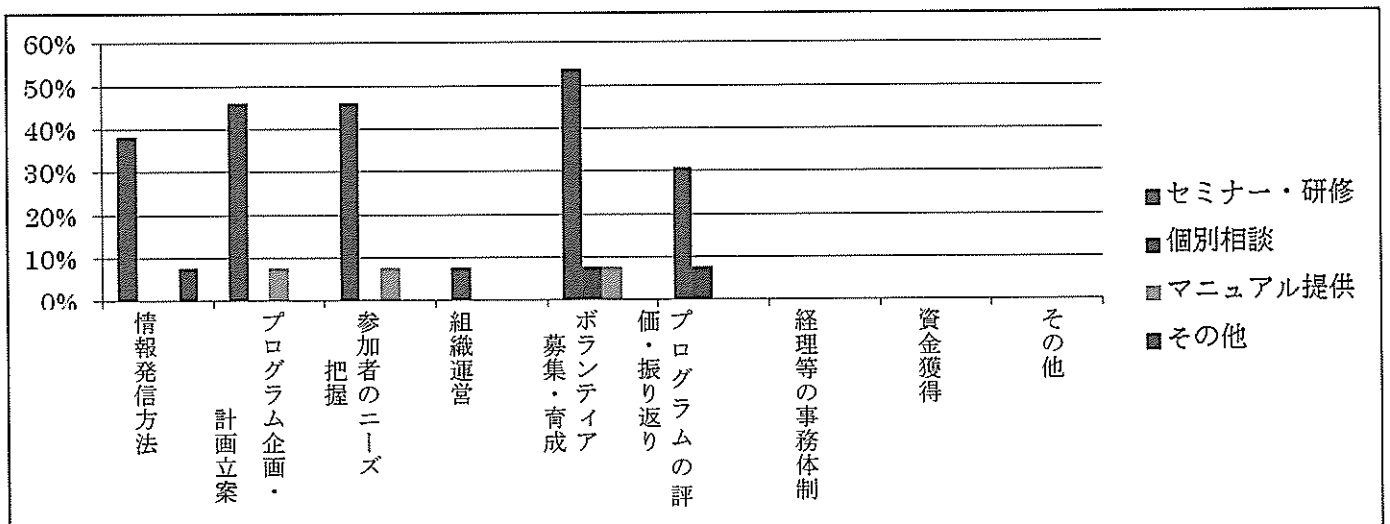


図 54 改善したい点と必要な支援(公民館)

まかせられる受け皿を増やしていくなどの提案。

- ・そういった活動を支えるために、団体に対しては長い期間の助成金制度を、また保護者の金銭的負担軽減の視点から、行政の補助が必要。

2) 公民館

- ・地域や保護者との連携を図り、その連携を通じた普及啓発が重要。
- ・人手不足だけでなく、子ども達が求めていることを知るためにも、子どもたちと一番身近に接している大人たちに協力してもらい、地域の各種団体等と連携し、地域の子ども達を地域の大人が見守り育てる活動を企画立案すること
- ・夏休みフリー塾等に、できるだけクラブ講座等の公民館利用者に参画してもらうような働きかけをすると同時に、クラブ講座受講生が独自にそのような場を設けることで、地域住民や保護者が広く子育て支援にかかわることができる。
- ・それらの取り組みを通じて、体験活動の必要性を理解することが、豊かな体験活動充実に繋がる。

3) 子ども会

親子共に多忙であることや世帯数の減少による役員負担の増加など、家庭を取り巻く環境変化に伴い発生している課題や悩みが多いことがうかがえた。加えて、悩みはあるものの、解決につながる情報が行き届いていない現状が見え隠れしている。

- ・親は大変だけれど、大変な思いをしても子どもにはそれ以上のものが返ってくる
- ・大変なこと以上に充実した活動ができれば理解をしてもらえと思う
- ・そういった活動の魅力を、保護者に広く伝えて普及啓発をし、担い手の確保に繋げたい。
- ・地域や学校との連携を求める
- ・地域に、住民と子ども会をつなぐコーディネーターの役割を担う人がいると、分からないことも質問もしやすく、保護者が子どもへ入会しやすくなるのではないか
- ・小学校の土曜授業の日を使うなどして学校の行事の一つとすることで、体験活動参加の機会が増える
- ・企画立案に対する相談窓口や研修を必要とする
- ・基本的な企画の作り方のほか、子ども自身が企画し活動するための方法、年間行事のマンネリ化打破のための方法などのテーマで、知識・技術を向上させたい
- ・他地区の子ども会活動を参考にするために、子ども会同士の交流の場を求める声も聞かれた。
- ・また会員減に伴う会費減収から活動回数を減らす選択を余儀なくされたり、会費の金額を下げたことで運営に支障が出ている
- ・祭りへの出店やバザー開催等で資金獲得に努めていても、改善策に結びつけられずにいる

4) スポーツ少年団

- ・地域、市、県ともに、資金的支援をしてほしい
- ・少子化に伴う活動資金不足や、合併後の体協からの補助金減額、市補助金減額等、不景気によるベテラン指導者の退任などがある
- ・使用している学校施設が修理できない場合、子ども達の安全を理由にその場が使えなくなり、活動に支障が出るという理由から、スポーツ施設及び備品等の購入費、及び修理費等の予算を出してほしい
- ・近年、公園では、ソフトボールを使った遊びなどができない場所も多く、スポーツのできるグラウンドを増やしてほしい
- ・学校のグラウンドを開放など、小学校との連携を求める
- ・仕事を持つ傍らボランティアとして携わる指導者の育成、および育成できる環境づくりを必要とする
- ・様々な活動の指導者同士、団体同士の情報交換や相互を高め合う機会を持ったり、保護者と学校と地域ボランティアの協働の推進することで、新たな担い手を育成したり、保護者や地域に対する普及啓発をしてはどうか
- ・乳幼児期は、「乳児幼児健診」や「おやこクラブ」があるなど、地域、行政、子どもの関係が密接である一方で、学童期は希薄になり、それぞれの連携が難しくなっている
- ・相互に連携を図り、小中学校や地域の少年団等も一緒になって情報交換や情報発信を行い、子どもたちのために働きかけを行うことで、体験活動の場も回数も広がるのではないか

5) 美術館/動物園/植物園等

- ・体験活動を行う地域のリーダー的存在が必要
- ・養成講座などを開催できるのが理想的だが、実現するには難しい現状があるため、体験活動に加わるところから始めて、子どもたちも、そこにかかわる大人たちも、共に体験を深め、学び、成長していく活動が展開されるようになると良い
- ・体験活動、居場所づくりから子どもが吸収することは多く、その為にも補助金制度ができ、多様な活動を増やしていけたら学びの場を充実させることができる

・入園者増により補助金等に頼らず維持運営が可能と考えるため、多くの自治体が動物園・水族館に利用価値(命や環境教育)を認めているという前提から、行政には利用促進を図る手助けをしてほしい

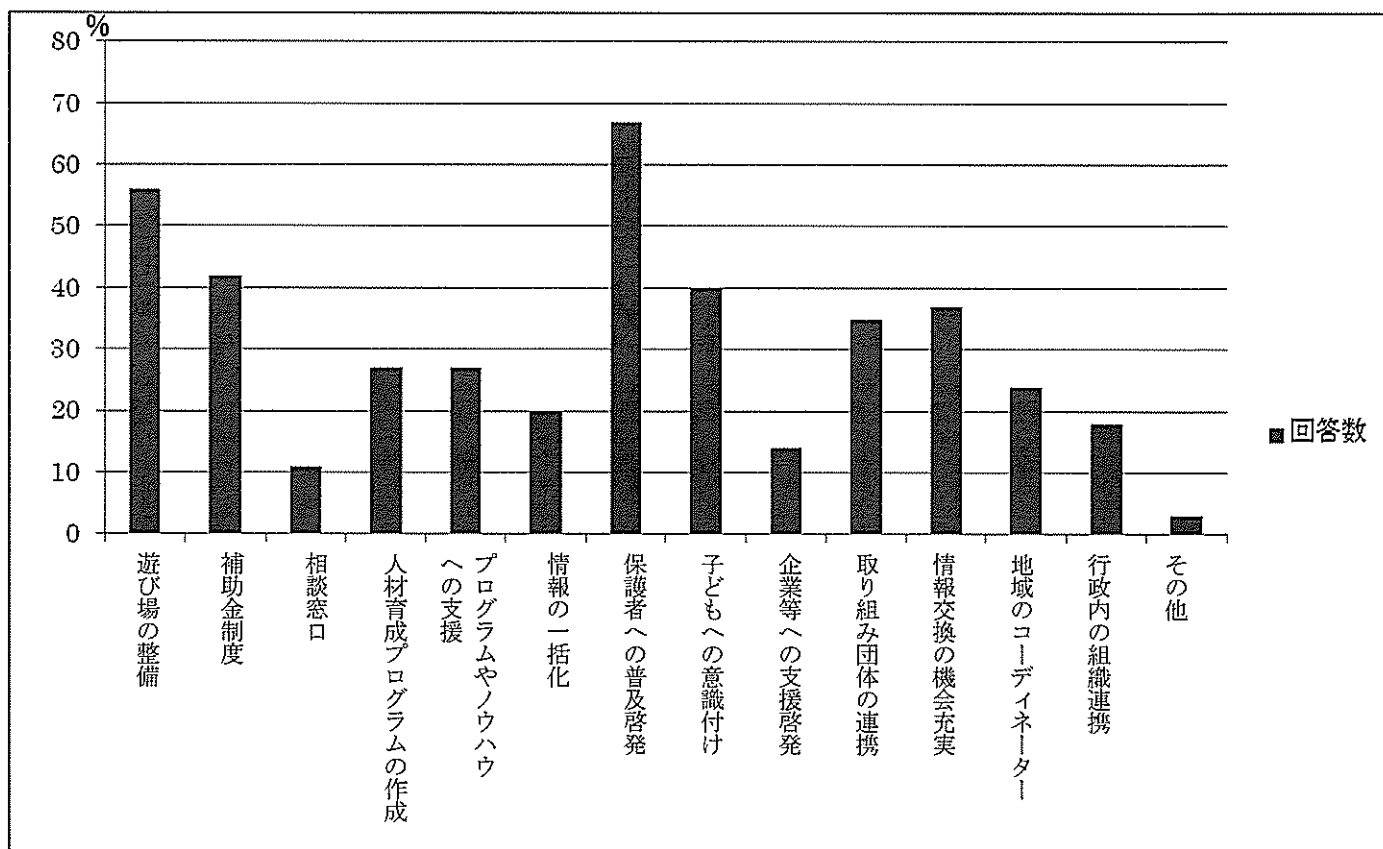


図 57 体験活動の機会を増やし質を高めるために必要なこと(全体)

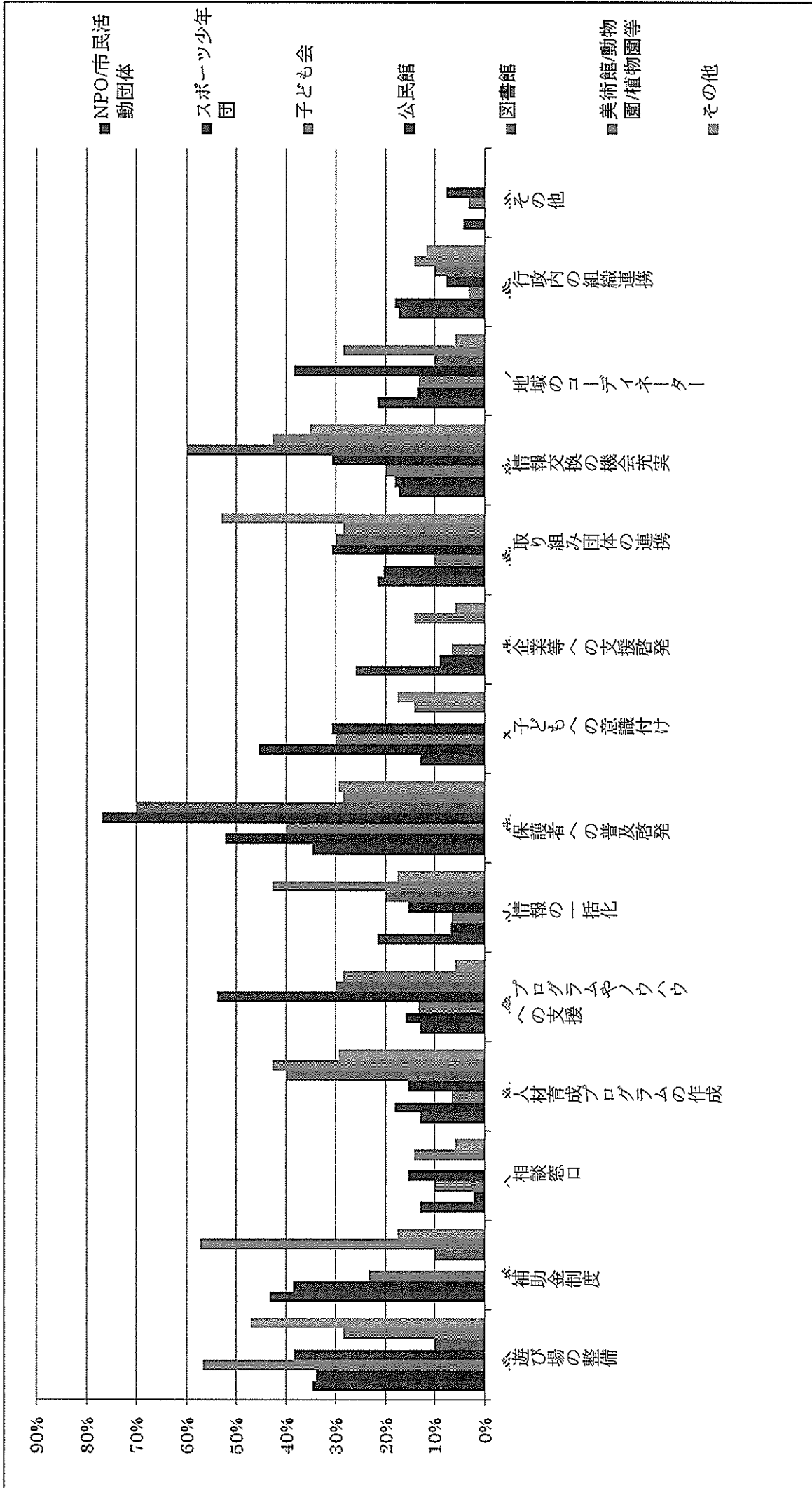


図 58 体験活動の機会を増やし質を高めるために必要なこと(団体種別ごと)

4. まとめ

4-1. 成果と課題

今回、保護者を対象としたアンケート、及び体験活動を提供している団体を対象としたアンケートを実施した。保護者を対象としたアンケートからは、体験活動に一定価値は感じつつも十分に提供できていないと感じる保護者が多いという実態が明らかとなった。子どもの可能性や興味関心を尊重し、体験活動への参加を決める保護者が多い一方で、保護者自身の多忙さや役割負担の大きさが不参加に繋がっていることも明確になった。

団体を対象とするアンケートからは、参加者が増えている要因として、子どもの興味・関心があること、親子で参加ができること等が挙げられた。一方、参加者が減少している要因としては、保護者の多忙さや役割負担の大きさが指摘されており、これらは、保護者が体験活動を選ぶ際の基準と概ね合致する結果となった。

いずれのアンケート結果からも、保護者を取り巻く環境が、子ども達の体験活動の参加の可否や体験活動の質や提供量に、大きく影響を与えていることが明確である。また、体験活動を提供する分野ごとの課題や、それに対して必要とする支援についても明らかにすることができた。今後、体験活動を提供している団体に対して適切な支援をすると同時に、体験活動の意義や魅力を、子どもたちにも保護者にも、具体的によりわかりやすく伝えていくことが体験活動の促進に繋がると考えられる。

今回の調査では、保護者の体験活動に対する意識と、体験活動を提供する側、いわゆる「担い手」の課題意識について明らかにすることができた。しかし、各々の体験活動が、子どもたちの成長のどの部分に寄与しているのか、具体的なところまでは明らかにすることができなかった。体験活動の機会拡充と質の向上を図るためには、子ども達自身がそれらを魅力的と感じ、また担い手となる保護者や地域住民をはじめとする市民が、体験活動の意義について具体的に理解することが求められる。体験活動の意義を広く普及啓発し、子ども達の豊かな成長に繋がる体験活動の場を提供するためには、体験活動が子どもたちのいかなる成長に関与しているのかを明らかにし、可視化させることが今後の課題である。

4-2. 今後の展望

保護者はもとより、子どもたちへ体験活動を提供している担い手は、人材育成や資金調達、プログラムづくりなど、多様な課題や悩みを抱えながらも、子ども達が豊かに成長できる環境づくりを追求している。しかし少子高齢化や共働き世帯の増加を社会背景とする現在において、保護者だけ、もしくは個々の団体が単独で、体験活動の機会を担保するには限界がある。このような状況下で、保護者や各団体が抱える課題や悩みを解決し、体験活動の機会拡充を図るには、まずお互いが現状を把握し、それぞれが抱える課題を共有することが解決への第一歩と考えられる。行政・NPO・市民、それぞれのセクターが、各々の役割に基づいて知識・技術・資源の交換をしながら協働していくことが、今後の子どもたちの豊かな成長に資すると考えられる。

自立する子どもを育むための体験活動調査への協力をお願い

本アンケート調査は、平成25年度岡山市市民協働推進モデル事業として、岡山市とNPO法人岡山市子どもセンターが協働で行うものです。岡山市における子どもの体験活動に関する状況を調査し、子どもたちの体験活動を促進する環境整備につなげていくために実施します。以下の概要をお読みの上、ご回答くださいますようお願いいたします。

◆調査の目的：

体験活動は、子どもたちの「生きる力」を育むために重要だと言われています。しかし、都市化、少子化、電子メディアの普及、地域とのつながりの希薄化といった社会変化や価値観の多様化などにより、子どもたちの遊びや体験への参加は減少していると指摘されています。

本調査は、岡山市における子どもたちの体験活動への参加に関する保護者の意識を明らかにし、体験活動促進へ向けた取り組みに役立て、岡山っ子育成条例に掲げられている「自立する子ども」の育成に寄与することを目的とし実施します。また、並行して体験活動を提供する団体・施設等への調査も行っており、本調査と併せて分析を行うこととしています。

◆調査対象：小学校1年生～3年生の児童の保護者にあたる方

注）本調査票は世帯主にあたる方宛に送付させていただいていますが、対象児童の保護者にあたる方がご回答ください。

◆返信：同封の返信用封筒（切手不要）に入れて平成26年2月28日（金）までにご投函ください。

◆備考：本調査票は、岡山市の住民基本台帳にもとづき、小学校1年生～小学校3年生の児童のある世帯1,000世帯を、岡山市において、システム処理し、無作為抽出して送付しています。アンケートの受取・集計は、NPO法人岡山市子どもセンターが行い、岡山市とともに分析します。なお、調査結果は岡山市のホームページ等で公表いたします。

<ご回答いただくにあたって>

- ・学校以外で、お子様を参加させた体験活動について回答してください。
- ・お名前は無記入でお願いします。アンケートの集計は統計的に処理し、個人や学校を特定することはありません。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

<この調査について問い合わせ先>

NPO法人岡山市子どもセンター（担当：西村、美咲）

〒701-0144 岡山県岡山市北区久米 348

URL <http://www.kodomo-npo.jp/>

TEL 086-242-1810

FAX 086-242-1830

E-Mail info@kodomo-npo.jp

自立する子どもを育むための体験活動調査 B

1. 平成 25(2013)年度に、学校以外で、小学校 1 年生～3年生のお子様を参加させた自然体験・スポーツ活動などについて、教えてください。(親子での参加を含む)

(1) 該当するものすべてに○をつけてください。その他は、空欄に内容をご記入ください。(複数回答可)

1. 宿泊を伴うキャンプ	2. 自然観察	3. 飼育・動物との触れ合い
4. 登山・ハイキングなど	5. 天体観測	6. ネイチャーゲーム
7. 水辺体験	8. 農業体験	9. 植物採集
10. 昆虫採集	11. スポーツ	
12. その他 ()

(2) 今年度、お子さんを十分に自然体験・スポーツ活動などに参加させられたと感じていますか。(該当するところひとつに○)

1. 不十分 2. どちらかといえば不十分 3. ふつう 4. どちらかといえば十分 5. 十分

2. 自然体験・スポーツ活動などに対するお考えを、教えてください。

(1) 体験活動へ参加させる理由または参加を迷う理由で、それぞれ該当するものすべてに○をつけてください。

参加させる理由(複数回答可)	参加を迷う理由(複数回答可)
ア. 子どもが希望したから(理由は不明)	a. 子どもが希望しないから(理由は不明)
イ. 子どもの人間関係が広がるから	b. 子どもに体験する時間がないから
ウ. 子どもの興味・関心が広がるから	c. 直接成績に結びつかないと感じるから
エ. 体力や技能が身に付くから	d. 行かせたいが子どもがすぐトラブルを起こしそうだから
オ. 学力の向上に繋がるから	e. 子どもだけで行かせるには安全面で心配があるから
カ. 流行だから	f. 主催団体に不安があるから
キ. 町内で多くの人が参加していたから	g. 友人・知人の反応が気になるから
ク. 自分の友人が参加させていたから	h. 親が忙しくてつれていけないから
ケ. 子どもの兄弟やいとこが参加していたから	i. 親の役割負担が大きいから
コ. 親子で参加できるから	j. 費用がかかるから
サ. 費用が安いから	k. 身近に提供するところがないから
シ. 家の近くだから	l. 参加条件に合わないから
ス. 主催団体に馴染みがあるから	m. 体験させたい内容のものがないから
セ. 自分の時間ができるから	n. 体験そのものに価値を感じないから
ソ. 親の交友関係が広がるから	o. 体験に関する情報の集め方がわからないから
タ. 自分が子どもの頃に体験して良いと感じているから	p. 情報はあるが何を体験させて良いかわからないから
チ. 自分が体験できなかったため子どもには体験させたいから	

(2) お子様を参加させて、特に良かった活動と、可能であればそれを主催した団体名を、ひとつだけご記入ください。

活動名(_____)

団体名(_____)

(3) その団体を選ばれた理由を教えてください。

理由を、質問2(1)の「参加させる理由」の選択肢(ア～チ)から選び、以下にご記入ください。(複数回答可)

--	--	--	--

3. 平成 25(2013)年度に、学校以外で、小学校 1 年生～3 年生のお子様を参加させた生活体験活動について、教えてください。(親子での参加を含む)

(1) 該当するものすべてに○をつけてください。その他は、空欄に内容をご記入ください。(複数回答可)

1. 季節の行事(Xmas 会・新入生歓迎会など)	2. 伝統行事(お神輿・とんどなど)	3. 料理
4. 裁縫	5. 清掃活動・資源回収	6. 防災訓練など
7. 語学	8. 国際交流	9. 職業体験
10. パソコン	11. その他 ()	

(2) 今年度、お子さんを十分に生活体験活動に参加させられたと感じていますか。(該当するところひとつに○)

1. 不十分 2. どちらかといえば不十分 3. ふつう 4. どちらかといえば十分 5. 十分

4. 生活体験活動に対するお考えを、教えてください。

(1) 体験活動へ参加させる理由または参加を迷う理由で、それぞれ該当するものすべてに○をつけてください。

参加させる理由(複数回答可)	参加を迷う理由(複数回答可)
ア. 子どもが希望したから(理由は不明)	a. 子どもが希望しないから(理由は不明)
イ. 子どもの人間関係が広がるから	b. 子どもに体験する時間がないから
ウ. 子どもの興味・関心が広がるから	c. 直接成績に結びつかないと感じるから
エ. 体力や技能が身に付くから	d. 行かせたいが子どもがすぐトラブルを起こしそうだから
オ. 学力の向上に繋がるから	e. 子どもだけで行かせるには安全面で心配があるから
カ. 流行だから	f. 主催団体に不安があるから
キ. 町内で多くの人に参加していたから	g. 友人・知人の反応が気になるから
ク. 自分の友人が参加させていたから	h. 親が忙しくてつれていけないから
ケ. 子どもの兄弟やいとこが参加していたから	i. 親の役割負担が大きいから
コ. 親子で参加できるから	j. 費用がかかるから
サ. 費用が安いから	k. 身近に提供するところがないから
シ. 家の近くだから	l. 参加条件に合わないから
ス. 主催団体に馴染みがあるから	m. 体験させたい内容のものがないから
セ. 自分の時間ができるから	n. 体験そのものに価値を感じないから
ソ. 親の交友関係が広がるから	o. 体験に関する情報の集め方がわからないから
タ. 自分が子どもの頃に体験して良いと感じているから	p. 情報はあるが何を体験させて良いかわからないから
チ. 自分が体験できなかったため子どもには体験させたいから	

(2) お子様を参加させて、特に良かった活動とそれを主催した団体名を、ひとつだけご記入ください。

活動名(_____)

団体名(_____)

(3) その団体を選ばれた理由を教えてください。

理由を、質問4(1)の「参加させる理由」の選択肢(ア～チ)から選び、以下にご記入ください。(複数回答可)

--	--	--	--	--

5. 平成 25(2013)年度に、学校以外で、小学校 1 年生～3 年生のお子様を参加させた文化体験活動について、教えてください。(親子での参加を含む)

(1) 該当するものすべてに○をつけてください。その他は、空欄に内容をご記入ください。(複数回答可)

1. 茶道	2. 華道	3. 書道・硬筆
4. 陶芸	5. 囲碁・将棋・チェス・オセロ	6. 昔遊び (こま・たこ・けん玉など)
7. 読み聞かせ	8. 映画鑑賞	9. 音楽鑑賞・演劇鑑賞
10. 合唱・合奏	11. 劇・ミュージカルの演技	12. ダンス・日本舞踊・バレエ
13. 絵画・デザイン	14. 工作	15. 科学実験
16. その他 ()

(2) 今年度、お子さんを十分に文化体験活動に参加させられたと感じていますか。(該当するところひとつに○)

1. 不十分 2. どちらかといえば不十分 3. ふつう 4. どちらかといえば十分 5. 十分

6. 文化体験活動に対するお考えを、教えてください。

(1) 体験活動へ参加させる理由または参加を迷う理由で、それぞれ該当するものすべてに○をつけてください。

参加させる理由(複数回答可)	参加を迷う理由(複数回答可)
ア. 子どもが希望したから(理由は不明)	a. 子どもが希望しないから(理由は不明)
イ. 子どもの人間関係が広がるから	b. 子どもに体験する時間がないから
ウ. 子どもの興味・関心が広がるから	c. 直接成績に結びつかないと感じるから
エ. 体力や技能が身に付くから	d. 行かせたいが子どもがすぐトラブルを起こしそうだから
オ. 学力の向上に繋がるから	e. 子どもだけで行かせるには安全面で心配があるから
カ. 流行だから	f. 主催団体に不安があるから
キ. 町内で多くの人に参加していたから	g. 友人・知人の反応が気になるから
ク. 自分の友人が参加させていたから	h. 親が忙しくてつれていけないから
ケ. 子どもの兄弟やいとこが参加していたから	i. 親の役割負担が大きいから
コ. 親子で参加できるから	j. 費用がかかるから
サ. 費用が安いから	k. 身近に提供するところがないから
シ. 家の近くだから	l. 参加条件に合わないから
ス. 主催団体に馴染みがあるから	m. 体験させたい内容のものがないから
セ. 自分の時間ができるから	n. 体験そのものに価値を感じないから
ソ. 親の交友関係が広がるから	o. 体験に関する情報の集め方がわからないから
タ. 自分が子どもの頃に体験して良いと感じているから	p. 情報はあるが何を体験させて良いかわからないから
チ. 自分が体験できなかったため子どもには体験させたいから	

(2) お子様を参加させて、特に良かった活動とそれを主催した団体名を、ひとつだけご記入ください。

活動名(_____)

団体名(_____)

(3) その団体を選ばれた理由を教えてください。

理由を、質問6(1)の「参加させる理由」の選択肢(ア～チ)から選び、以下にご記入ください。(複数回答可)

--	--	--	--	--

アンケートは裏面に続きます

7. 次の質問にご回答ください。小学校1年生～3年生の保護者の方についてお尋ねします。

(1) あなたの年齢についてお尋ねします。該当する番号をひとつだけ選び○で囲んでください。

1. 10代 2. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60歳以上

(2) 同居している人にすべて○をつけてください。(お子様から見た続柄でご回答ください。)

※小学校1年生～3年生のお子様が多数居られる場合は一番年少のお子さんを基準にお考えください。

1. 父 2. 母 3. 祖父 4. 祖母
5. 兄弟(人) 6. 弟妹(人) 7. その他()

(3) 世帯年収についてお尋ねします。該当する番号をひとつだけ選び○で囲んでください。

※ここでの世帯とは同居している家族全員を指します。

1. 300万円未満 2. 300万円～600万円未満 3. 600万円以上

8. 次の質問にご回答ください。小学校1年生～3年生のお子様のことについてお尋ねします。

(1) お子様が所属している青少年団体すべてに○をつけてください。

1. 所属していない 2. 子ども会 3. スポーツ少年団
4. 2,3以外の青少年団体()

(2) お子様の学習塾への通塾状況についてお尋ねします。該当する番号をひとつだけ選び○で囲んでください。

1. 通塾していない 2. 週に1日 3. 週に2日
4. 週に3～6日 5. 毎日 6. その他()

(3) お子様の休日のTV、ゲーム、インターネットの一日あたりのおおよその合計視聴時間についてお尋ねします。該当する番号をひとつだけ選び○で囲んでください。

1. 視聴しない 2. 1時間未満 3. 1時間～3時間未満
4. 3時間～5時間未満 5. 5時間～7時間未満 6. 7時間以上

9. 次の質問にご回答ください。小学校1年生～3年生のお子様のことについてお尋ねします。

(1) この年度内に参加された体験活動の、お子様の成長に対する効果についてお尋ねします。

該当する番号をひとつだけ選び○で囲んでください。

1. 効果的でなかった 2. どちらかといえば効果的でなかった 3. ふつう
4. どちらかといえば効果的だった 5. 効果的だった

質問は以上です。ご協力、ありがとうございました。



平成25年度岡山市市民協働推進モデル事業

「自立する子どもを育むための体験活動調査」(団体用)への協力をお願い

本調査は、平成25年度岡山市市民協働推進モデル事業として、岡山市とNPO法人岡山市子どもセンターが協働で行うものです。岡山市における子どもの体験活動に関する状況を調査し、子どもたちの体験活動を促進する環境整備につなげていくために実施します。下記の概要をお読みの上、ご回答くださいますようお願いいたします。
平成26年2月

NPO法人岡山市子どもセンター

<調査の概要>

◆調査の目的:

体験活動は、子どもたちの「生きる力」を育むために重要だと言われています。しかし、都市化、少子化、電子メディアの普及、地域とのつながりの希薄化といった社会変化や保護者の意識の変化などにより、子どもたちの遊びや体験への参加は減少していると指摘されています。

本調査は、岡山市において子どもたちの体験活動を提供されている団体・施設の皆様に、その体験活動の現状と課題等についてお伺いし、体験活動促進へ向けた取り組みに役立て、岡山っ子育成条例に掲げられている「自立する子ども」の育成に寄与することを目的とし実施します。

なお、本調査と並行して、小学校1年生から3年生の子どもの保護者に対して、体験活動への参加意識の調査を行っています。本調査とともに分析・考察を行うこととしていいます。そのため、調査対象としている「事業」は、主として1年生～3年生が対象に含まれる事業・行事とし、「体験活動」とは、設問1にある種別に分けていただいています。

◆調査対象：①岡山市内の青少年団体・社会教育団体、子どもへ体験活動を提供しているNPO・企業・学校等

②岡山市内で子どもへ体験活動を提供している施設

◆返信：同封の返信用封筒(切手不要)に入れて平成26年2月28日(金)までにご投函ください。

Web上での回答を希望される場合は、岡山市子どもセンターホームページ(<http://www.kodomo-npo.jp/>)もしくは、

岡山市公式ホームページ(http://www.city.okayama.jp/network/network_00241.html)へ、アクセスしてご回答ください。

◆備考：調査結果は岡山市のホームページ等で公表いたします。また、本調査で知り得た個人情報等については、本調査の実施の範囲内のみで活用し、情報提供者並びに本人の同意なく他の目的で使用することはありません。

◆この調査について問い合わせ先:

NPO法人岡山市子どもセンター(担当:西村、美咲)

〒701-0144 岡山県岡山市北区久米348 TEL 086-242-1810 FAX 086-242-1830

E-Mail info@kodomo-npo.jp URL <http://www.kodomo-npo.jp/>

「自立する子どもを育むための体験活動調査」(団体用)

【調査用紙 1/3】

1 貴団体・施設が実施している事業(子どもを対象とした体験活動プログラム)の内、3年以上継続して取り組まれている事業名と参加人数の状況、その理由について教えてください。なお、種別については下表Aから該当する数字を一つ、理由については下表Bから該当するアルファベットを全てご記入ください。

種別	事業名	参加人数	理由(参加人数増減の)
		増・維持・減	
		増・維持・減	
		増・維持・減	
		増・維持・減	
		増・維持・減	
		増・維持・減	
		増・維持・減	



【A.種別】

自然体験等	1 宿泊を伴うキャンプ 4 登山・ハイキング等 7 水辺体験 11 スポーツ	2 自然観察 5 天体観測 8 農業体験 12 その他	3 飼育・動物との触れ合い 6 ネイチャゲーム 9 植物採集 10 昆虫採集
生活体験	13 季節の行事(クリスマス会等) 15 料理 19 語学	14 伝統行事(盆踊り・とんど等) 17 清掃活動・資源回収 21 職業体験	18 防災訓練等 22 パソコン 23 その他
文化体験	24 茶道 29 昔遊び(こま・けん玉等) 32 音楽鑑賞・演劇鑑賞 35 ダンス・日本舞踊・バレエ	26 書道・硬筆 30 読み聞かせ 33 合唱・合奏 36 絵画・デザイン	27 陶芸 31 映画鑑賞 34 劇・ミュージカルの演技 37 工作
	38 科学実験	39 その他	



【B.理由】

A. 子どもの人間関係を広げたい保護者が増えた	B. 子どもの興味・関心を広げたい保護者が増えた
C. 子どもに体力や技能を身につけさせたい保護者が増えた	D. 子どもに学力向上を期待する保護者が増えた
E. 流行だから	F. 保護者同士で誘い合っている
G. 親子で参加できる	H. 費用が安い
I. 参加しやすい立地条件	J. リピーターが増えている
K. 自分の時間が欲しい保護者が増えた	L. 親同士の友達ができる
M. 子どもの成績に結びつかない	N. 学校の成績に結びつかない
O. トラブルを心配する親が増えた	P. 子どもだけの参加に不安を感じる保護者が増えた
Q. 団体の認知度が低い	R. 親が忙しい
S. 親の役割負担が大きいため費用がかかると感じる保護者が増えた	T. 費用がかかると感じる保護者が増えた
U. 交通の便が悪いなど参加しにくい立地条件	V. ニーズと合わなくなってきた
W. プログラムや内容に魅力がない	X. プログラムがマンネリ化している
Y. 体験活動に価値を感じない人が増えてきた	Z. 情報が届けられていない
(その他の場合は具体的に記載ください)	

2 体験活動のプログラムを提供している上で、困っていること、悩んでいること、教えてください。
該当するもの全てに○をつけてください。

ア. 広報の効果が ない	イ. 情報発信が 苦手	ウ. 独自性が 出せない	エ. 近くの団体 と参加者の 奪い合いとな る	オ. プログラム のマンネリ化
カ. こちらの意 図が参加者 に伝わらない	ク. 子どもの ニーズがわ からない	ケ. 活動に適 した会場確 保が難しい	コ. 参加者の 減少	ク. 体験活動 に熱心な保 護者が減っ た
コ. 保護者の ニーズがわ からない	サ. 子どもの ニーズがわ からない	シ. 保護者と 子どものニ ーズがずれ ている	カ. スタッフ 不足	ス. 参加者 (保護者)の 要求が高い
セ. 協力や負 担を練がる 保護者が 増えた	ソ. 託児所 のようにな っている	タ. 他団体 との連携・ 協力が難 しい	チ. スタフ 不足	ツ. 指導者 不足
テ. 指導者 やスタッフ の育成	ト. 事務 をする人 がいない	タ. 事業を 評価する 指標がな い	ニ. 経費が かかきみ 参加費が 高くなる	
ヌ. 団体の 運営経費 が足りない	ネ. 行政 の協力が 得られない	ナ. 学校の 協力が得 られない	ハ. 地域 の協力が 得られない	
ヒ. その他 ()				

3 貴団体・施設が実施している事業を改善するために、今後取り組んでいきたいこと、そのために必要な支援は何ですか？
改善に取り組みたい点 (i ~ ix) に○をつけ、それに対応して受けたい支援 (A~D) にも○をつけてください。

改善したい点	受けたい支援の方法			
	A.セミナー・研修	B.個別相談	C.マニュアル提供	D.その他 ()
i 広報・PR や情報発信方法	A.セミナー・研修	B.個別相談	C.マニュアル提供	D.その他 ()
ii プログラムの企画立案や計画作成	A.セミナー・研修	B.個別相談	C.マニュアル提供	D.その他 ()
iii 参加者のニーズ把握や掘り起し	A.セミナー・研修	B.個別相談	C.マニュアル提供	D.その他 ()
iv 組織内のコミュニケーションや事業の進捗管理	A.セミナー・研修	B.個別相談	C.マニュアル提供	D.その他 ()
v ボランティアスタッフの募集と育成	A.セミナー・研修	B.個別相談	C.マニュアル提供	D.その他 ()
vi プログラムの評価や振り返り	A.セミナー・研修	B.個別相談	C.マニュアル提供	D.その他 ()
vii 経理などの事務体制	A.セミナー・研修	B.個別相談	C.マニュアル提供	D.その他 ()
viii 資金獲得や寄附募集	A.セミナー・研修	B.個別相談	C.マニュアル提供	D.その他 ()
ix その他 ()	A.セミナー・研修	B.個別相談	C.マニュアル提供	D.その他 ()

アンケートは裏面に続きます。

4 岡山市の子どもたちに対する体験活動の機会を増やし、質を高めるために、必要なことや重要なことは何だと思えますか。該当するものに全て○をつけてください。ご意見を自由記述でお聞かせください。

選択肢	自由記述
ア. 遊び場の整備 イ. 補助金制度 ウ. 相談窓口 エ. 人材育成プログラムの作成 オ. プログラムやノウハウへの支援 カ. 情報の一括化 キ. 保護者への普及啓発 ク. 子どもの意識付け ケ. 企業等への支援啓発 コ. 取り組み団体の連携 サ. 情報交換の機会充実 シ. 地域などのコーディネート ス. 行政内の組織連携 セ. その他 ()	

5 最後に、貴団体・施設の概要を教えてください。

団体・施設名		
連絡担当者名	連絡先	
貴団体・施設は ア. 子どもたち自身（親子会員含む）を会員とする青少年団体、社会教育団体 イ. 子どもたちを対象とする体験プログラムを提供するNPO、企業、学校等 ウ. 子どもたちを対象とした体験プログラムを提供する施設 エ. その他 ()	主な体験活動分野	A. 自然体験・野外活動 B. 生活体験活動 C. 文化体験活動

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。☺

平成 25 年度 岡山市市民協働推進モデル事業
自立する子どもを育むための体験活動調査 報告書

◆調査実施/報告書編著◆

特定非営利活動法人 岡山市子どもセンター

◆発行◆

平成 26 (2014) 年 3 月

特定非営利活動法人 岡山市子どもセンター
〒701-0144 岡山市北区久米 348 旧白石幼稚園内

本調査は、平成 25 年度 岡山市市民協働推進モデル事業の補助を受けて実施いたしました。